

# 防災総合センター一年報

第 1 号

Annual Report of  
Center for Integrated Research and Education of  
Natural hazards, Shizuoka University

No.1, June 2010

2010 年 6 月

静岡大学防災総合センター

## 目 次

1 センターの概要	1
1.1 設立趣旨	1
1.2 組織及びメンバー	2
2 研究成果	3
2.1 主要研究成果	3
2.1.1 富士山および伊豆東部火山群の噴火史に関する研究	3
2.1.2 緊急地震速報の有効性の検証	5
2.1.3 火山ハザードマップの表現方法の検証	6
2.1.4 2009年7月21日に山口県などで発生した豪雨災害に関する調査研究	7
2.1.5 2009年8月9日に兵庫県などで発生した豪雨災害に関する調査研究	8
2.1.6 2009年8月11日駿河湾の地震に関する調査研究	10
2.1.7 2009年12月伊豆東方沖群発地震に関する調査研究	14
2.1.8 全国市町村の防災担当者を対象としたアンケート調査	15
2.1.9 防災ワークショップの実施手法とその効果に関する研究	16
2.1.10 牛山准教授が日本災害情報学会廣井賞(学術的功績部門)を受賞	17
2.2 研究業績リスト	18
2.2.1 著書	18
2.2.2 学術論文	19
2.2.3 学会口頭発表	21
2.2.4 その他の著作物	30
3 学内教育活動	32
3.1 学際科目「地震防災」	32
3.2 新入生セミナー	33
3.3 全学防災訓練	34
3.4 健康体育学	35
3.5 駿河湾の地震の被災地見学会	36
4 プロジェクト・関連行事	37
4.1 地域社会と連携した研究成果・防災知識の発信	37
4.1.1 サイエンスフェスティバル in る・く・る 2009	37
4.1.2 「震災対策技術展/自然災害対策技術展」静岡	38
4.1.3 DMAT のロジスティクス講習会	39

4.1.4	しずおか防災コンソーシアム・土曜セミナー	40
4.1.5	しずおか防災コンソーシアム・マスコミ防災研究会	42
4.1.6	日本災害情報学会第10回研究発表大会	43
4.1.7	文部科学省防災教育支援推進プログラム「防災教育支援事業」	44
4.1.8	「クロスロード」ファシリテータ養成講座	45
4.2	防災教材の開発とアーカイブ	46
4.2.1	火山がつくった伊東の風景	46
4.2.2	富士山大噴火が迫っている	48
4.2.3	活火山富士山がわかる本（Web版）	48
4.2.4	セクターコラプス～富士山崩壊～	49
4.2.5	世界の火山百科図鑑	49
4.2.6	古代中世地震・噴火史料データベース	50
4.2.7	災害後の心のケアハンドブック	51
5	社会的活動	52
5.1	一般・実務者対象の講演会等	52
5.2	マスメディア・新聞等への掲載	60
5.3	公的委員会の委員等	75
5.4	学会の委員等	77

# 1 センターの概要

## 1.1 設立趣旨

静岡大学防災総合センターは、全学組織のひとつとして2008年7月に設置され、静岡大学地域連携協働センターを構成する組織のひとつとしても位置づけられている。防災総合センター設置の目的は、地域連携を通じ、静岡大学における防災教育を多面的に展開させるとともに、防災科学研究、防災ボランティア活動支援および災害時の危機管理能力を組織的に発展させ、地域の防災体制の向上に資することである。

東海地震の発生可能性が指摘されて以来、静岡大学は防災体制構築への先進的な取り組みを続けてきた。1980年代に大学内の建物の耐震診断をおこなって耐震工事を実施するとともに、全学防災対策委員会の下に地震対策検討部会を設置し、地震発生時の詳細な対応策を決定した。また、1995年阪神・淡路大震災の後に学生の災害ボランティア育成が意識されるようになり、静岡大学学生防災ネットワークがつくられるとともに、2004年度には静岡大学防災・ボランティアセンターが設立された。

さらに、防災教育の充実を目指して、2004年度から学外講師も含めた十数名の教員が担当する講義「地震防災」を開講するとともに、1年生全員の必修科目である「新入生セミナー」の中で防災の基礎知識と心得に関する講演を行うようになった。この背景には、静岡大学内の各部署に防災と密接に関係する研究テーマをもつ教員が徐々に増えてきたことがある。もともと地震防災は理学だけにとどまらず、工学、情報科学、人文・社会科学、医学などの幅広い分野にわたる総合科学の側面をもっていたからである。こうした教員たちは、各自の分野における防災研究・教育を推進するだけでなく、防災施策の検討を目的とした国や自治体の委員を委嘱されることによって、防災行政にも深く関わるようになった。また、小中高校や地域社会からの講師派遣要請にも、個別的にはあるが積極的に貢献してきた。

このような防災研究・教育・地域連携の活動実績を背景として、静岡大学は、静岡県防災局（現・静岡県危機管理部）との協力の下に、文部科学省の特別教育研究経費（初年度は特殊要因経費）に「防災教育の地域連携を通じた多面的展開と拡充」を申請した結果、2008年度から4年間にわたる交付が認められることになった。そして、この経費を最大限活用しつつ、これまで各学部・各教員が個別におこなってきた防災研究・教育・地域連携活動を有機的・組織的に結びつけ、より高次かつ困難な地域防災課題の解決に取り組むために設立されたのが、静岡大学防災総合センターである。

## 1.2 組織及びメンバー

2010年4月現在の当センターメンバーは下記の通りである。

### センター長

増田俊明（理学部教授，構造岩石学・地球進化学）

### 副センター長

牛山素行（専任教員・研究部門准教授，自然災害科学・災害情報学・豪雨災害）

小山真人（教育学部教授，火山学・歴史地震学）

### 専任教員

林 能成（研究部門准教授，地震学・地震防災）

### 併任教員

土屋 智（研究部門長，農学部教授，地震砂防学・土砂災害）

村越 真（教育部門長，教育学部教授，認知心理学・リスク心理学）

里村幹夫（地域連携・ボランティア支援部門長，理学部教授，測地学・地球物理学）

林 愛明（創造科学技術大学院教授，地震地質学・活断層学）

池谷直樹（保健管理センター教授，災害医療）

小林朋子（教育学部准教授，学校心理学・被災者の心のケア）

前田恭伸（工学部教授，災害情報・リスクコミュニケーション）

### 客員教員

吉田明夫（研究部門客員教授，地震学・地震予知）

笠原英男（地域連携・ボランティア支援部門客員教授，災害ボランティア）

伊藤英之（教育部門客員准教授，火山防災・土砂災害）

### サポートスタッフ

栗田幸将（学術研究員）

迎田晶子（事務補佐員）

## 2 研究成果

### 2.1 主要研究成果

#### 2.1.1 富士山および伊豆東部火山群の噴火史に関する研究

静岡県内には気象庁が認定した活火山のうちの2火山が存在する。富士山と伊豆東部火山群である。富士山は歴史時代に少なくとも10回噴火を起こした活動的な火山であり、現在も地下のマグマ活動が低周波地震として観測されている。また、伊豆東部火山群のマグマ活動も群発地震としてくり返されており、1989年7月には伊東沖で海底噴火も起きた。両火山とも人口密集地や観光地の近傍にあるため、その防災対策は重要である。本センター併任教員の小山真人教授は、地質学ならびに史料学的方法によってこの両火山の噴火史を調査・研究している。最近の主要な研究成果として以下のものがある。

小山真人（2009）：富士山噴火とハザードマップ—宝永噴火の16日間—。古今書院，174 p.

小山真人・前嶋美紀（2009）：古記録と景観再現CGにもとづく1707年富士山宝永噴火の噴煙柱高度推定。日本火山学会2009年秋季大会予稿集。

小山真人（2010）：伊豆東部火山群（東伊豆単成火山地域）の分布・噴火史の再検討。日本地球惑星科学連合学会2010年大会予稿集，SVC063-27。

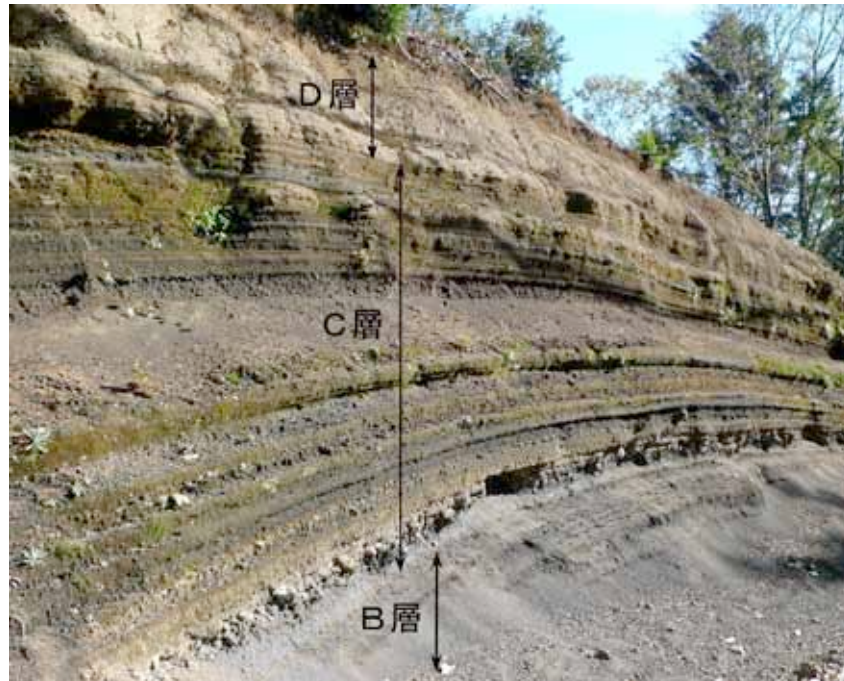


写真 2-1 およそ 4000 年前に伊豆東部火山群の大室山から噴出・降下した火山れき・火山灰。A～Eの5層に細分されているが、ここではそのうちのB～D層（ここの厚さは約 1.5 メートル）が見られる。

### 2.1.2 緊急地震速報の有効性の検証

気象庁は2007年9月より緊急地震速報の一般向け提供を開始したが、その有効性は十分検証されたものとは言えない。本センター併任教員の村越真教授と小山真人教授は、静岡県危機管理部および静岡放送との協力の下で、地震体験車（起震車）を用いた心理実験によって緊急地震速報が想定東海地震に対して有効であるかどうかの検証作業を続けている。これまで得られた代表的な研究成果として以下のものがある。

村越 真・小山真人・石原寛子・鈴木吉彦・岩崎大輔・岩田孝仁（2008）：緊急地震速報は本当に住民の退避行動を促進するか？—起震車を用いて東海地震を想定した検証実験—。災害情報，no.6，73-78。

村越 真・小山真人・岩崎大輔・岩田孝仁（2008）：緊急地震速報と被害に関する教示が退避行動に与える影響。日本災害情報学会第10回学会大会予稿集。

牛山素行・矢守克也・篠木幹子・太田好乃：緊急地震速報に対する情報利用者の認識に関する探索的研究，自然災害科学，Vol.28, No.1, pp.47-57, 2009。

村越 真・小山真人・大石勝博・岩田孝仁（2009）：緊急地震速報と退避タイミングの教示が退避行動に与える影響。日本災害情報学会第11回学会大会予稿集。



写真 2-2 起震車を用いた緊急地震速報の効果検証実験の様子



### 2.1.3 火山ハザードマップの表現方法の検証

内閣府・国土交通省・総務省消防庁の3者を事務局とする富士山ハザードマップ検討委員会の3年にわたる作業の結果として、2004年6月に最終報告書と富士山ハザードマップ試作版が公開され、これにもとづいた住民配布用のマップが静岡・山梨県内の一部市町村で全戸配布されている。これらのハザードマップが本当に住民にとって理解しやすいマップであるかどうかを検証するために、本センター併任教員の村越真教授と小山真人教授は、地元の生徒・学生・一般市民を対象としたハザードマップの読み取り実験をくり返し、より良い火山ハザードマップの表現法を探っている。これまで得られた代表的な研究成果として以下のものがある。

村越 真・小山真人 (2006) : 火山のハザードマップからの情報読み取りとそれに対する表現方法の効果. 災害情報, no.4, 40-49.

村越 真・小山真人 (2007) : 火山ハザードマップの読み取りに対するドリルマップ提示の効果. 地図, 45, 1-11.

村越 真・小山真人 (2008) : 利用マニュアルとドリルマップの提示が火山防災マップからの読み取り課題に与える影響. 静岡大学教育学部教育実践総合センター紀要, no.15, 109-115.

## 2.1.4 2009年7月21日に山口県などで発生した豪雨災害に関する調査研究

2009年7月21日山口県防府市を中心とした豪雨災害が発生した。当センターの牛山素行准教授は災害翌日の7月22日に現地踏査し、その後の資料収集などを踏まえて、(1)記録的な豪雨がもたらされた地域は限定的であること、(2)48時間程度のやや長い期間の降水量が大きかったこと、(3)死者・行方不明者の発生原因はほとんどが土砂による犠牲者であり、近年よく見られる豪雨災害による犠牲者の発生形態と見なせること、(4)自動車などで移動中の遭難者が少なくとも4名おり、移動中の遭難者の対策が重要であることなどを指摘した。

これらの調査結果については、災害当日からweb上(<http://disaster-i.net/disaster/20090721/>)で公開し、2009年8月1日にしずおか防災コンソーシアム主催の臨時土曜セミナーを開催して緊急報告会を行って発表したほか、各種学会での発表を行っている。また、災害後に採択された平成21年度科学研究費補助金特別研究促進費「2009年7月中国・九州北部の豪雨による水・土砂災害発生と防災対策に関する研究」(研究代表者・羽田野袈裟義・山口大学教授)に、牛山准教授が研究分担者として参加した。これまでの主な発表論文等は下記の通りである。このほか、1点の査読論文を投稿中である。

牛山素行, 2009年7月21日山口県で発生した豪雨災害の特徴, 第28回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.33-34, 2009年9月29日。

牛山素行, 2009年8月9日兵庫県佐用町を中心とした豪雨災害の特徴, 平成21年度自然災害科学西部地区部会研究発表会, 2010年2月12日。

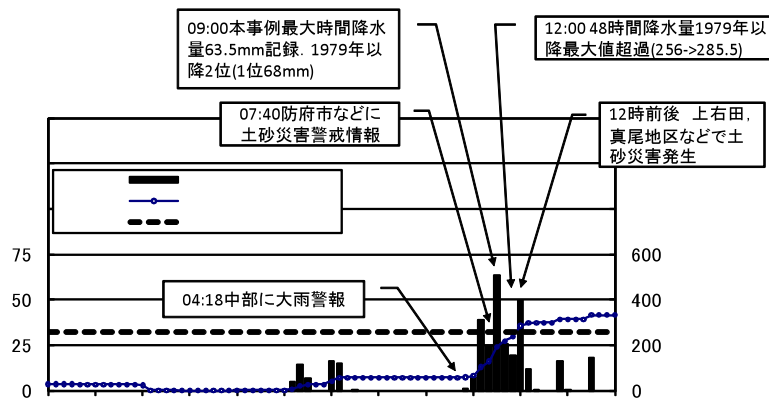


図 2-1 AMeDAS 防府の降水量と防府市における状況

### 2.1.5 2009年8月9日に兵庫県などで発生した豪雨災害に関する調査研究

2009年8月9日、兵庫県佐用町を中心とした豪雨災害が発生した。当センターの牛山素行准教授は8月14日、9月15日、11月26日、2010年1月29日に現地踏査し、その後の資料収集などを踏まえて、(1)避難途中の犠牲者が1980年代以降最大となったこと、(2)犠牲者は避難勧告発令より前に自主的に避難行動を起こしていた可能性が高いこと、(3)犠牲者を出した地域は地域防災活動に熱心だったが、その対象は主に地震災害であったこと、(4)自発的に決めた避難経路の選択や避難タイミングがかえって犠牲を拡大した可能性があることを指摘した。また、この災害を教訓とし、住民参加型の防災活動に災害科学の専門家が参画する必要性を指摘した。

これらの調査結果については、災害当日からweb上(<http://disaster-i.net/disaster/20090809/>)で公開したほか、各種学会での発表を行っている。また、この災害などを受けて発足した内閣府の「大雨災害における避難のあり方等検討委員会」に牛山准教授が委員として参加し、今後の防災政策に関しての意見を述べた。本災害に関するこれまでの主な発表論文等は下記の通りである。このほか2点の査読論文を投稿中である。

高柳夕芳・牛山素行，2004～2008年の豪雨災害による人的被害の原因分析，日本災害情報学会第11回研究発表大会予稿集，pp.121-126，2009年10月24日。

牛山素行，2009年8月9日兵庫県佐用町を中心とした豪雨災害の特徴，平成21年度自然災害科学西部地区部会研究発表会，2010年2月12日。



写真 2-3 洪水により9人の遭難者を出した佐用町本郷地区の被災現場

## 2009年8月台風9号(台風0909号)豪雨災害 研究関係情報

静岡大学防災総合センター 准教授 牛山 素行

2009/08/10作成開始

- 本ページの記述は、すべてページ作成時の速報的なものであり、完全なものではありません。本web中の記述は、基本的にページ作成時までの情報を元に作成しており、その後の更新はしていません。
- 現地調査の様子など最新の活動状況は、[ブログ](#)にも掲載しております。また、[メールマガジン](#)にご登録いただくと、更新状況をメールでお知らせいたします。

### 刊行物

- 牛山素行, 2009年8月9日兵庫県佐用町を中心とした豪雨災害の特徴, 平成21年度自然災害科学西部地区部会研究発表会, 2010年2月12日。

### 災害概要

- 2009年8月9日から10日にかけて、兵庫県西部を中心として、台風0909号の北側に発達した停滞前線による豪雨が発生した。この豪雨により、兵庫県佐用町などで死者・行方不明者27名(うち兵庫県23名)などの被害が生じている。兵庫県においては、2004年台風23号以来の人的被害規模の事例となった。

### オリジナル資料

- 各地での現象をGoogleMaps上に整理したメモ(位置は非常に不正確です)

※4 ... Google Earthは<http://earth.google.com/>からダウンロードできます。

写真	
<b>P1030256</b>	
	撮影日時: 2009:08:14 11:04:01 撮影場所: E134°21'22.14", N35°0'15.42", 101m 兵庫県佐用郡佐用町 コメント: 佐用町役場, 保健センター付近. 1m程度の浸水。
<b>P1030265</b>	
	撮影日時: 2009:08:14 11:18:16 撮影場所: E134°21'22.86", N35°0'19.14", 100m 兵庫県佐用郡佐用町 コメント: 自宅家屋内での犠牲者が生じた現場付近. 浸水深は 道路面+1.8m程度

図 2-2 佐用豪雨災害に関する調査結果を速報する web

## 2.1.6 2009年8月11日駿河湾の地震に関する調査研究

2009年8月11日5時7分、駿河湾の深さ23kmでマグニチュード6.5の地震が発生し、最大震度6弱の揺れが観測された。静岡県下で震度6以上が観測されたのは1944年12月7日の東南海地震において御前崎で震度6を観測して以来65年ぶりのことである。

この地震では家屋の全壊は発生していないが、県中部を中心に家屋半壊5棟、一部損壊8,392棟というかなりの被害が発生している。また、その被害は市や町の中でまんべんなく発生しているわけではなく、一部の地域に集中しているという傾向が見られた。そこで被害集中の原因を、地盤条件や地震動強さといった自然条件の側面と、事前の備え・対策といった人的条件の両側面から分析するための調査研究を行った。

### (1) 牧之原市および焼津市旧大井川町地区におけるアンケート調査

地震動の強さ、事前の備え、被害状況の三者の関係を明らかにする目的のアンケート調査を実施した。地震動強さについては「アンケート震度」（太田ほか、1979および1998）を用い、備え・被害についての独自質問を追加した。調査対象は両地区の全小学校児童の保護者とし、用紙の配布・回収は教育委員会を通じて各小学校経由でお願いした。また牧之原市においては特徴的な地盤条件を持つ2地区（庄内・鹿島）で自主防災会を通じた全戸アンケートも実施した。調査の結果、震度6弱相当の揺れに見舞われた地区はかなり狭い範囲に特定できること、揺れの強かった場所は必ずしも「揺れやすい地盤」と認識されている場所とは一致しないことなどが明らかになった。また地震後のコミュニティーレベルでの防災活動には地区毎のばらつきがみられた。これは日頃の取り組み状況や実際にこうむった揺れの強さなどを反映していると考えられ研究を進めている。

### (2) 静岡県下の市町内被害発生状況の分析

市町が集計した被害データをさらに細かい町丁目単位などで地図化して、その特徴を分析する研究を静岡県危機管理局との共同研究として行った。その結果、(1)の牧之原市、焼津市におけるアンケート震度と似た傾向を示し、静岡市、菊川市などにおいても、従来から「揺れやすい地盤」と言われていた場所ではそれほど被害がなく、むしろ比較的地盤がよいと言われていた場所で多くの被害が発生していることがあきらかになった。今回の地震では屋根瓦のずれ・脱落が被害のほとんどを占めており、壁や柱、梁などの被害は少なかった。瓦被害は短周期の地震動によって発生しやすいと考えられている。このような地震動を伝えやすい地盤は、家屋の固有振動数と一致する1~2秒といった比較的長周期の地震動を伝えやすい地盤とは異なっていると考えられ、その結果、「比較的地盤のよいところで被害が多発」という現象の原因になった可能性がある。この仮説を検証するための研究にも着手している。



図 2-3 アンケート震度から求められた牧之原市小学校区単位の震度。片浜小，相良小では震度5強相当以上となっているが，細江小，勝間田小，牧之原小では震度4相当である。

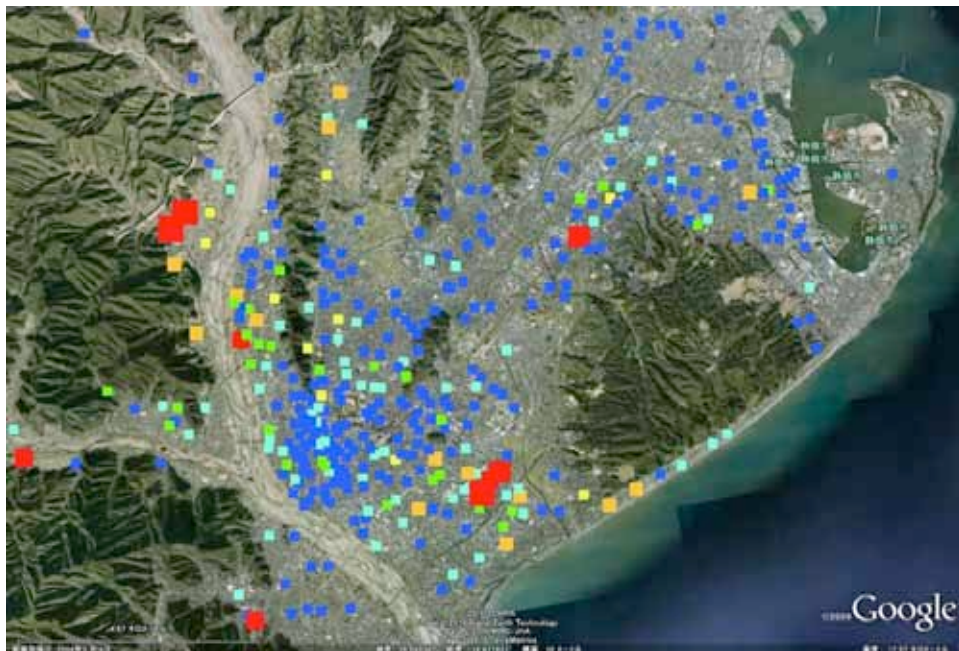


図 2-4 静岡市内の被害集中箇所（静岡県危機管理局との共同研究より）

### (3) 静岡市在住者対象の「備え」の実施状況などについてのアンケート調査

この地震による被害は9月3日時点の消防庁資料によると、死者1名、負傷者318名、住家半壊5棟など、比較的軽微であった。このことから、「防災に対する関心が高かったため被害が少なくすんだ」といったとらえられ方も一部見られるが、具体的な因果関係は明らかになっていない。そこで、災害に対する「備え」の実施率などを既往の他地域での調査と比較し、静岡県における特に住民レベルでの防災対策の現状と課題をについて調べた。

調査は、インターネットを通じた社会調査サービスであるgooリサーチ(NTTレゾナント株式会社・株式会社三菱総合研究所共同運営)を利用した。同サービスに登録しているモニターに対して調査依頼のメールを配信し、これに応じた回答者から先着順に一定数までの回答を受け付ける方式で行われる。調査は2009年8月26日～28日に実施した。依頼メールは静岡県静岡市在住者に限定して配信し、543件の回答を得た。

主な結果は以下の通りである。

- 「備え」の実施率は、同様な調査手法による他地域での結果と比べ一部でやや高いが、飛び抜けて高いわけではない。
  - 「関心が高く、備えも万全」などといった油断は禁物。
- 「賃貸」の「備え」実施率は、「持ち家」に比べ全体に低いが、危険度認知は同程度。
  - 「賃貸居住者=余所者=関心が低い」ではない
  - 賃貸居住者にもやりやすい対策の普及も重要か。賃貸では住む場所も選べる。情報の活用
- 大雨・洪水に対する危険度認知がやや甘い。
  - より身近にある災害として、注意を向けることが必要
- 東海地震被害想定、静岡市洪水HMの認知率は約2割
  - それぞれの場所の特性や個人の必要性に応じた個別具体的な「備え」を行うことが重要。一昔前にはできなかったが、今はその可能性が広がった。

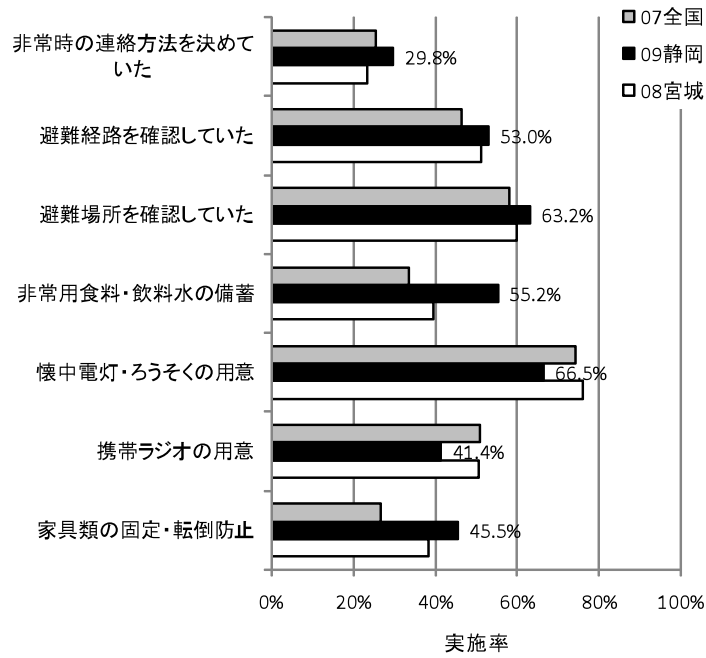


図 2-5 「備え」の実施率

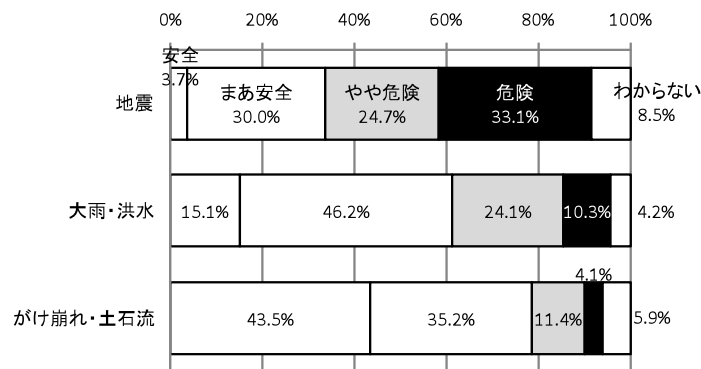


図 2-6 災害に対する危険度認知

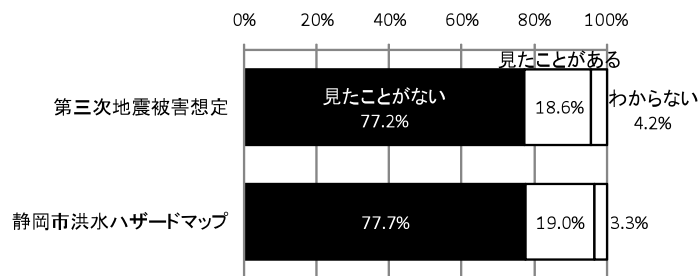


図 2-7 ハザードマップ的情報に対する認知



### 2.1.7 2009年12月伊豆東方沖群発地震に関する調査研究

伊豆半島の東半部（静岡県伊東市・伊豆の国市・伊豆市・東伊豆町・河津町）とその沖合の相模湾底にかけて、気象庁が認定する活火山のひとつである伊豆東部火山群が分布している。この火山群はおよそ15万年前から平均3000年に1度程度の噴火をくり返し、大室山に代表される単成火山の群れをつくり、1989年7月には伊東市沖の海底噴火によって新たに手石海丘火山が誕生した。しかし、火山群の活動の主体は、噴火に至らない地下のマグマ活動にともなう群発地震である。1978年以来、こうした群発地震が伊東市の東方沖で数ヶ月から数年間隔で発生し、伊東市内で震度5弱程度の揺れを生じることもあったが、被害は軽微なものであった。

こうした群発地震のひとつが、2009年12月17日夕刻から発生し、ひと月近く続いた。震源域は、過去の群発地震の中でも最も南西寄り、つまり市街地にもっとも近い場所であった。その中で、12月17日23時45分（マグニチュード5.0）、12月18日08時45分（マグニチュード5.1）の2度の大きな地震が生じ、それぞれ伊東市内で震度5弱の揺れが生じた。この2度の強震によって、局地的ではあるが住家の半壊・一部損壊が多数生じた（伊東市役所、私信）。こうした被害状況は、震源が近いとはいえ、これまでの群発地震では経験の無かったことであり、震度・被害の分布とその特性を知ることは、今後の防災対策を考える上で重要である。

こうした問題意識に立ち、本センター専任教員の林能成准教授と併任教員の小山真人教授は、伊東市役所・伊東市教育委員会との協力の下で、2010年2月から3月にかけて伊東市内の全10小学校（東、西、川奈、大池、宇佐美、八幡野、富戸、池、南、旭）に対し、その保護者世帯に対して震度・被害についてのアンケート調査をおこなった。また特に被害の大きかった伊東市城星町、長美代町、小室1丁目、小室2丁目の4地区に対して、町内会を窓口として同様の調査をおこなった。その結果、得られた約3000件の回答を現在集計中である。この結果をもとに詳細な震度分布図を描いた上で、地形・地質特性との関連性を探る予定である。



写真 2-4 2009年12月の伊豆半島東方沖群発地震の震源が集中した伊東市の汐吹崎周辺

### 2.1.8 全国市町村の防災担当者を対象としたアンケート調査

防災総合センター牛山研究室では、岩手県立大学総合政策学部地域政策講座、日本自然災害学会災害情報委員会との共同で、全国自治体の防災担当者を対象とした豪雨災害情報に関するアンケート調査を実施した。調査は郵送送付・郵送回収法で実施し、2008年12月22日に送付、回答は2009年4月末到着分で締め切った。調査対象は、2008年12月1日現在で存在した1805市区町村で、有効回答は1244件、回収率68.9%だった。

主な結果としては、(1)洪水・土砂災害対応のハザードマップの作成率は大きく向上し全市町村の約7割に、(2)リアルタイム雨量水位情報やハザードマップのWeb公開、防災メールの整備など、一般にも使える豪雨防災情報がさらに充実、(3)小規模自治体でのハザードマップ整備が進まない。地域への専門的人材による支援が重要に、(4)「空振り」を懸念して避難勧告をためらう市町村も少なくない。単に「空振り」「見逃し」を非難するのではなく、日頃から情報のあり方について地域での意識共有を、などが挙げられる。

この調査結果をもとに、すでに1件の学会発表を行い、1件の査読論文を投稿中である。また、速報報告書として下記を公開済みである。

市町村役場における豪雨災害情報の利活用状況について

<http://disaster-i.net/notes/090803report.pdf>

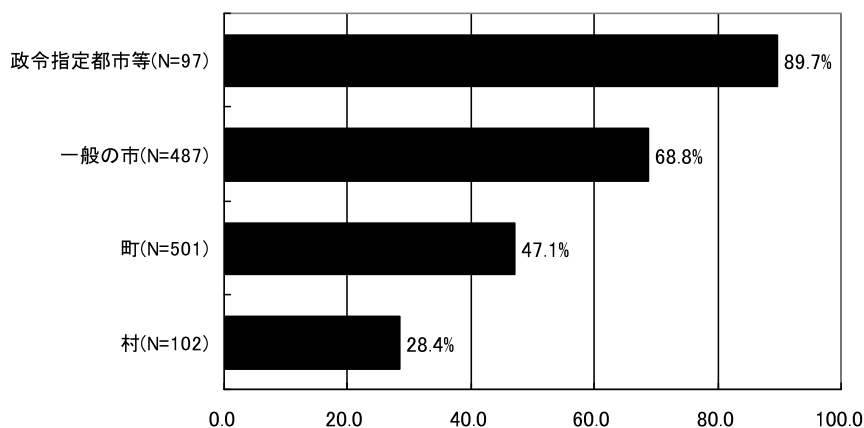


図 2-8 自治体規模別洪水ハザードマップ作成状況

### 2.1.9 防災ワークショップの実施手法とその効果に関する研究

近年、防災ワークショップ、災害図上訓練、DIG などと呼ばれる、住民参加型で地図などを用いて作業を行いながら地域防災について考えるスタイルの活動が活発化している。このような活動は、実施すれば多彩な意見が交わされ、参加者の満足感も得やすいが、その効果については、定性的かつ漠然としており、効果的な実施手法についてもまだ十分確立されているわけではない。防災総合センターでは牛山研究室を中心として、(1)防災ワークショップの実施手法に関する試行錯誤、(2)ワークショップ参加者の変化に着目した効果検証、(3)ワークショップ実施地域の変化に着目した効果検証などを行ってきたが、明瞭な効果は確認できないというのが現時点での結論である。

一方、津波災害危険地域の住民対象のアンケート調査から、地形(自宅の標高)を適切に認知している回答者は、危険度認知や防災意識も高いという結果が得られたことから、ワークショップでの作業に、微細な地形の読み取りを行うことが効果的なのではないかと推論された。この観点も盛り込んだ防災ワークショップの実施手法を整理、提案し、実証実験的な取り組みを行いつつある。これまでに発表した主な研究成果は以下の通りである。

牛山素行・吉田淳美・柏木紀子・佐藤聖一・佐藤庸亮:非居住者を対象とした防災ワークショップの参加者に及ぼす効果の分析, 自然災害科学, Vol.27, No.4, pp.375-385, 2009.

太田好乃・牛山素行・吉田亜里紗:地形認知と津波リスク認知の関係について, 災害情報, No.7, pp.101-110, 2009.

牛山素行・岩館晋・太田好乃:課題探索型地域防災ワークショップの試行, 自然災害科学, Vol.28, No.2, pp.113-124, 2009.

牛山素行・吉田淳美:津波避難場所の観察にもとづく地域防災ワークショップ効果検証の試み, 自然災害科学, Vol.28, No.3, pp.241-248, 2009.

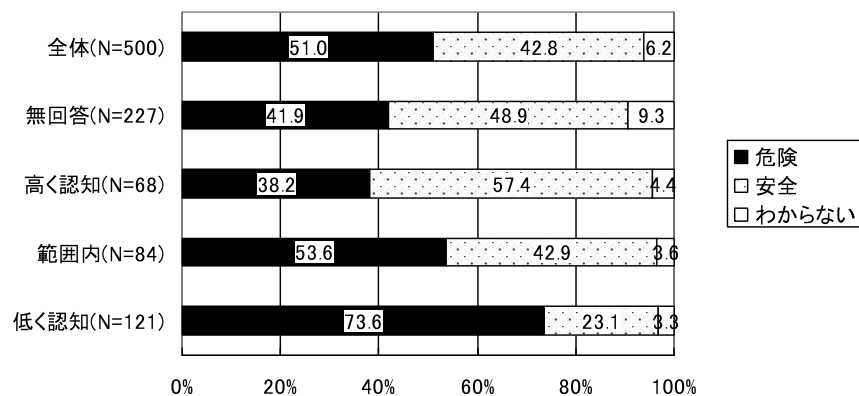


図 2-9 自宅の標高認知と津波被害危険度認知の関係(岩手県陸前高田市今泉地区)

#### 2.1.10 牛山准教授が日本災害情報学会廣井賞(学術的功績部門)を受賞

2009年10月25日に行われた日本災害情報学会第10回大会にて、本センター専任教員の牛山素行准教授が同学会の「2009年廣井賞・学術的功績部門」を授与された。廣井賞とは、同学会が故廣井脩初代会長（前東京大学大学院教授）の志を継ぐ記念事業として、災害情報の分野で功績のあった個人・団体を表彰するもので、いわゆる学会賞である。なお、2007年には本センター併任教員の小山真人教授も「廣井賞・学術的功績部門」を受賞している。

受賞理由は下記のようにになっている。

##### 【学術的功績部門】

##### ■牛山素行氏（静岡大学防災総合センター准教授）

##### 授賞理由

牛山素行氏は、災害情報を用いた風水害の被害軽減に関する実証的研究に、これまで一貫して取り組んでこられました。そして、現実的課題として、情報システムが整備されていてもそれだけでは活用が進まないこと、地域のハザードマップや防災ワークショップなどによるリスク認知にも難しさがあること、またソフト対策による犠牲者軽減効果の客観的検証など、災害情報分野の学術研究において顕著な功績をあげていると認められる。



写真 2-5 廣井賞を授与される牛山准教授

## 2.2 研究業績リスト

### 2.2.1 著書

- 里村幹夫編:地震防災, 学術図書出版社, 155 p, 2008(センター関係者ほぼ全員が分担執筆)
- 小山真人:富士山噴火とハザードマップ-宝永噴火の16日間-. 古今書院, 174 p, 2009
- 小山真人:火山がつくった伊東の風景-伊豆東部火山群(北東部)の2万5000分の1地質図-. 静岡新聞社, 変形A2判, 2009
- 小山真人:火山爆発に迫る-噴火メカニズムの解明と火山災害の軽減. 井田喜明・谷口宏光 (編), 東大出版会, 240 p, 2009 (分担執筆)
- 小山真人:富士山大噴火が迫っている! 最新科学が明かす噴火シナリオと災害規模. 技術評論社, 199 p, 2008
- 小山真人:セクターコラプス-富士山崩壊-. 光原伸 (画) 石黒耀 (原作) 小山真人 (監修), 集英社, 270 p, 2008 (監修・解説)
- 小山真人:火山の事典 (第2版). 朝倉書店, 584 p, 2008 (分担執筆)
- 小山真人:世界の火山百科図鑑. マウロ・ロッシ, パオロ・パパーレ, ルカ・ルピ, マルコ・ストッパート(著), 日本火山の会 (訳), 終風舎, 336 p, 2008 (分担翻訳・編集)
- 牛山素行:豪雨の災害情報学, 古今書院, 2008.
- 牛山素行:川の百科事典(高橋裕ら編), 丸善, (見出し語5語を執筆), 2009.
- 林能成:「もう一つの連続して発生する震災」, 大大特成果普及事業チーム33編集, 河田恵昭・林春男監修, 巨大地震災害へのカウントダウン~東海・東南海・南海地震に向けた防災戦略, p.204-205, 東京法令出版, pp.262, 2009.
- 林能成:「目撃証言から津波の挙動を探る」, 林勲男編著・自然災害と復興支援, p.221-246, 明石書店, pp.409, 2010.
- Chongfu Huang et al. 編, Yasunobu Maeda 分担執筆: New perspectives on risk analysis and crisis response, Atlantis Press, 2009(, Z-2, Text Processing Techniques for Supporting Risk Management).
- 伊藤英之: マウロ・ロッシ・他 (著) 日本火山の会 (訳) 世界の火山百科図鑑, 終冬舎, 2008, (アフリカ, アジア・オセアニア, 南北アメリカを分担翻訳)
- 伊藤英之: 井田喜明・谷口宏光 (編) 火山爆発に迫る, 東京大学出版会, 2009 (第4章を分担執筆)
- 池谷直樹:竹中 優 編 「疾病の成因・病態・診断・治療」, 医歯薬出版社 分担執筆 p.167-174, 2009
- 小林朋子:小泉令三編著 よくわかる生徒指導・キャリア教育,ナカニシヤ出版,2010,「児童虐待への対応」「緊急対応」

## 2.2.2 学術論文

- Masuda, T., Nakayama, S., Kimura, N., Okamoto, A.: Magnitude of , and at mid-crustal levels in the continental crust microboudin method applied to an impure metachert from Turkey. *Tectonophysics*, 460, 230-236, 2008.
- 遠藤 恵・小山真人:自然現象記録媒体としての静岡県沼津の中近世史料『大平年代記』の特性分析, *歴史地震*, no.24, 121-128, 2009.
- 村越 真・小山真人・石原寛子・鈴木吉彦・岩崎大輔・岩田孝仁:緊急地震速報は本当に住民の退避行動を促進するか?—一起震車を用いて東海地震を想定した検証実験—, *災害情報*, no.6, 73-78, 2008.
- 村越 真・小山真人:利用マニュアルとドリルマップの提示が火山防災マップからの読み取り課題に与える影響, *静岡大学教育学部教育実践総合センター紀要*, no.15, 109-115, 2008.
- 牛山素行:2004~2007年の豪雨災害による人的被害の原因分析, *河川技術論文集*, Vol.14, pp.175-180, 2008.
- 牛山素行・吉田淳美・柏木紀子・佐藤聖一・佐藤庸亮:非居住者を対象とした防災ワークショップの参加者に及ぼす効果の分析, *自然災害科学*, Vol.27, No.4, pp.375-385, 2009.
- 牛山素行・矢守克也・篠木幹子・太田好乃:緊急地震速報に対する情報利用者の認識に関する探索的研究, *自然災害科学*, Vol.28, No.1, pp.47-57, 2009.
- 牛山素行・太田好乃:平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震による死者・行方不明者の特徴, *自然災害科学*, Vol.28, No.1, pp.59-66, 2009.
- 太田好乃・牛山素行・吉田亜里紗:地形認知と津波リスク認知の関係について, *災害情報*, No.7, pp.101-110, 2009.
- 矢守克也・牛山素行:神戸市都賀川災害に見られる諸課題—自然と社会の交絡—, *災害情報*, No.7, pp.111-120, 2009.
- 牛山素行・岩館晋・太田好乃:課題探索型地域防災ワークショップの試行, *自然災害科学*, Vol.28, No.2, pp.113-124, 2009.
- 牛山素行・吉田淳美:津波避難場所の観察にもとづく地域防災ワークショップ効果検証の試み, *自然災害科学*, Vol.28, No.3, pp.241-248, 2009.
- 太田好乃・牛山素行:地域特性と学校防災教育の関係について, *自然災害科学*, Vol.28, No.3, pp.249-257, 2009.
- 牛山素行, 太田好乃:防災の観点から見た磐井川流域の土地利用の特徴, *東北地域災害科学研究*, No.45, pp.223-228, 2009.
- Motoyuki USHIYAMA:Characteristics of human damage caused by heavy rainfall disasters in Japan from 2005 to 2007, *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University*, No.42, pp.49-56, 2008.
- 牛山素行:岩手県における学校防災教育の実施状況について, *津波工学研究報告*, No.26,

- pp.85-96, 2009.
- Yoshinari Hayashi and Reo KIMURA, How is it Possible to Let People Visualize Disasters that They have Never Experienced? -Disaster Educational Process Using the Case of the 1944 Tonankai Earthquake and the 1945 Mikawa Earthquake, Japan, 14th World Conference on Earthquake Engineering Conference Proceedings, CD-ROM (8pp.), 2008.
- 木村玲欧・林能成・鈴木康弘・飛田潤:「継続性と発展性」を追求した大学組織の地震防災体制確立の試み, 土木学会・安全問題研究論文集, Vol.3, p.197-202, 2008.
- 林能成・梶田将司・太田芳博・若松進・木村玲欧・飛田潤・鈴木康弘・間瀬健二:組織特性を考慮した大学向け災害時安否確認システムの開発, 土木学会安全問題研究論文集, vol.3, p.203-208, 2008.
- Yoshinari Hayashi, Masataka Ando, Tetsuya Fujita, Mizuho Ishida, Mamoru Nakamura, Didik Sugiyanto, Putri Yasmina Munawwarah and Nani Eliza, Investigation, Verification and Visualization of Tsunami Experiences on 2004 Sumatra-Andaman Earthquake in and around Banda Aceh, Indonesia, Annual International Workshop & Expo on Sumatra Tsunami Disaster & Recovery Proceedings, CD-ROM (8pp.), 2008.
- Ando, M., Nakamura, M., Hayashi, Y., Ishida, M. and Didik, S., "Observed high amplitude tsunami 0.520 km away from the northern Sumatra coast during the 2004 Sumatra earthquake", Journal of Asian Earth Sciences, doi:10.1016/j.jseaes.2009.01.009, 2009.
- 村越真:等高線読解の背後にある知識と推論プロセス, 静岡大学教育学部人文・社会科学篇, 59号, pp97-108, 2009.
- 村越真:アウトドア活動のリスクとそのリテラシー, 災害情報, No.7 16-21, 2009.
- 村越真・小山真人・岩崎大輔:岩田孝仁:緊急地震速報と被害に関する教示が退避行動に与える影響, 静岡大学教育実践総合センター紀要, No.17, 75-80, 2009.
- 村越真:登山者の読図・ナビゲーションスキルとその自己評価に関する調査, 登山研修, 24:55-58, 2009.
- Yasuhumi Mori, Kenzo Mori, Hiromasa Inuduka, Yasunobu Maeda, Toshihisa Asano and Syougo Sugiura: Determinants of Volunteering based on a Theory of Volunteer Opportunity, Environmental Science, Vol.21, No.5, pp.391-402, 2008.
- 森 保文, 前田恭伸, 浅野敏久, 井田国宏:ボランティア参加のコスト・ベネフィットー佐鳴湖浄化のためのヨシ刈りを例としてー, 環境システム研究論文集, Vol.36, pp.483-489, 2008.
- 安田清・笠原英男:DMAT支援隊静岡, 日本集団災害医学会誌, Vol 14, No.1, pp.33-37, 2009.

伊藤英之・小山内信智・西本晴男・臼杵伸浩・佐口治:地震による崩壊発生箇所と震度分布との関係, 砂防学会誌, Vol.61, No.5, 46-51, 2009.

Satomura, M., Koyama, M. and Ikegaya, N.: Education program and preparedness for the earthquake hazards in Shizuoka University., Proceedings of the International Symposium on the Restoration Program from Giant Earthquakes and Tsunamis, Royal Phuket City Hotel, Phuket, Thailand, January 22-24, 279-282,2008.

松村正三・里村幹夫・内海さや香: 東海地震のアスペリティの推定 (東海地域の地震活動変化と地殻変動: その5), 地震, 第2輯, 第60巻, 第4号, 267-277, 2008.

Satomura,M.: Educational program on the disaster study in Shizuoka University., Proceedings of The 3rd Joint International Forum "Regarding Global Environment and International Education in the 21st Century", December 4 - 6 at Fuji-Tokoha University. 36-38, 2009.

Ikegaya N, Yoshida T, et al. Effects of relaxin on development of mesangial proliferative nephritis. Ann N Y Acad Sci. 1160:300-3. 2009

Kobayashi,T. Ozaki,M., Oono,T., & Mutou,T. 2010 Development of Promotion Program to Handle Mental and Physical Changes after Disasters,静岡大学教育学部研究報告人文・社会科学編, 60,17-28,2010.

小林朋子・望月香緒莉: 災害時における障がいのある人の困難とその支援に関する研究の展望,障害理解研究,11,49-59,2009.

小林朋子・大野建樹・尾崎未希・武藤寿彰: 保護者・子どもを対象とした災害によるストレスへの対処プログラムに関する研究-中学生を対象とした予備的实践-静岡大学教育実践総合センター紀要,17 75-87,2009.

富永良喜・吉沅洪・小林朋子他: 四川大地震後の中国心理専門家への研修プログラムの効果-心のケア知識尺度の作成と検討から:心的トラウマ研究,5,1-7,2009.

富永良喜・高橋哲・小林朋子・吉沅洪: 四川大地震西南大学心理学院の支援-四川大地震こころのケア、活動報告会を日本心理臨床学会と共に開催して-日本臨床心理士会雑誌, 57,11-17,2008.

### 2.2.3 学会口頭発表

増田俊明・三宅智也・岡本 敦, 差応力値の比較 マイクロブーディン法-方解石双晶法-再結晶粒径法, 日本地質学会, 2008.

増田俊明・櫻井涼子・三宅智也・山之内未来・大森康智・針金由美子・岡本 敦, 圧痕形成における平行四辺形の法則の提唱, 日本地質学会, 2009.

村越 真・小山真人・大石勝博・岩田孝仁, 緊急地震速報と退避タイミングの教示が退避行動に与える影響, 日本災害情報学会第11回学会大会, 2009年10月(静岡).

小山真人・前嶋美紀, 古記録と景観再現CGにもとづく1707年富士山宝永噴火の噴煙柱高



度推定, 日本火山学会 2009 年秋季大会, 2009 年 10 月(小田原).

小山真人, 火山がつくった伊東の風景-市民と観光客のための伊豆東部火山群 2 万 5000 分の 1 地質図, 日本地球惑星科学連合 2009 年大会, A003-P010, 2009 年 5 月(千葉).

上杉麻純・小山真人・鈴木雄介・海野 進, 赤色立体地図を用いた富士山南麓の新时期溶岩流の微地形解析, 日本地球惑星科学連合 2009 年大会, V-159-P005, 2009 年 5 月(千葉).

佐野友絵・小山真人, GIS を用いた静岡市内の津波対策施設の実態分析, 地域安全学会第 23 回研究発表会 (秋季), 2008 年 11 月(静岡).

村越 真・小山真人・岩崎大輔・岩田孝仁, 緊急地震速報と被害に関する教示が退避行動に与える影響, 日本災害情報学会第 10 回学会大会, 2008 年 10 月(東京).

清水芳恵・坂元優太・小山真人・中川和之, 地震火山こどもサマースクール 9 年, 私たち 374 人の次世代に何が伝わったか, 地球惑星関連学会 2008 年合同大会, 2008 年 5 月(千葉).

石橋克彦・古代中世地震史料データベース化研究グループ, 「地震・噴火史料データベース (古代・中世編)」のインターネット公開, 日本地球惑星科学連合 2008 年大会, 2008 年 5 月(千葉).

小山真人・佐野友絵・伊藤英之, 富士山における融雪型火山泥流・火砕流のハザードの再検討, 富士・箱根の火山活動の現状に係るワークショップ, 神奈川県温泉地学研究所, 2010 年 2 月.

小山真人・前嶋美紀, 史料にもとづく 1707 年富士山宝永噴火の噴煙柱高度推定, 富士・箱根の火山活動の現状に係るワークショップ, 神奈川県温泉地学研究所, 2010 年 2 月.

高柳夕芳・小山真人, 13 世紀古記録にもとづく未知の東海・南海地震の発生時期検討, 第 26 回歴史地震研究会, 2009 年 9 月(大津).

小山真人, 「昼は雲の柱」にみる噴火危機対応の未来像, 次世代型・火山ハザードマップに関する研究集会, (独) 防災科学技術研究所火山防災研究部・つくば火山学セミナー, 2009 年 3 月(つくば).

遠藤 恵・小山真人, 自然現象記録媒体としての静岡県沼津の中近世史料『大平年代記』の特性分析, 第 25 回歴史地震研究会, 2008 年 9 月(つくば).

牛山素行・吉田亜里紗・太田好乃, 防災ワークショップにおける地形情報活用の試み, 水文・水資源学会 2008 年研究発表会要旨集, pp.132-133, 2008 年 8 月 26 日.

吉田亜里紗・牛山素行, 津波経験地域における中高生および大人の災害意識の違いについて, 第 27 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.19-20, 2008 年 9 月 25 日.

太田好乃・牛山素行, 平成 20 年(2008 年)岩手・宮城内陸地震による人的被害の特徴, 第 27 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.17-18, 2008 年 9 月 25 日.

牛山素行・矢守克也・篠木幹子・太田好乃, 緊急地震速報に対する情報利用者の認識について, 日本災害情報学会第 10 回研究発表大会予稿集, pp.115-118, 2008 年 10 月 25 日.

太田好乃・牛山素行・吉田亜里紗, 地形認知と津波リスク認知の関係について, 日本災害

- 情報学会第 10 回研究発表大会予稿集, pp.339-342, 2008 年 10 月 26 日.
- 矢守克也・牛山素行, 神戸市都賀川災害に見られる諸課題, 日本災害情報学会第 10 回研究発表大会予稿集, pp.151-156, 2008 年 10 月 25 日.
- 牛山素行・太田好乃, 地形分類図を活用した岩手・宮城内陸地震直後の土砂災害簡易危険度評価, 平成 21 年度砂防学会研究発表会概要集, pp.22-23, 2009 年 5 月 27 日.
- 牛山素行, 2009 年 7 月 21 日山口県で発生した豪雨災害の特徴, 第 28 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.33-34, 2009 年 9 月 29 日.
- 太田好乃・牛山素行, 市町村役場における豪雨災害情報の利活用状況について, 第 28 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.123-124, 2009 年 9 月 29 日.
- 牛山素行・小山真人・村越真・林能成・長谷川孝博, 2009 年 8 月 11 日駿河湾の地震後の調査にみられる「備え」の実情, 日本災害情報学会第 11 回研究発表大会予稿集, pp.29-34, 2009 年 10 月 24 日.
- 高柳夕芳・牛山素行, 2004～2008 年の豪雨災害による人的被害の原因分析, 日本災害情報学会第 11 回研究発表大会予稿集, pp.121-126, 2009 年 10 月 24 日.
- 牛山素行, 2009 年 8 月 9 日兵庫県佐用町を中心とした豪雨災害の特徴, 平成 21 年度自然災害科学西部地区部会研究発表会, 2010 年 2 月 12 日.
- 安藤雅孝・中村衛・林能成・石田瑞穂, 2004 年スマトラ・アンダマン地震の際にはるか沖合いで目撃された大津波, 地球惑星科学関連合同大会予稿集, S148-003, 2008.
- 林能成・安藤雅孝・石田瑞穂, 漁師へのインタビュー調査によって明らかになった 2004 年インド洋津波の沖合いででの挙動, 地球惑星科学関連合同大会予稿集, S148-004, 2008.
- 林能成, 即時地震警報の防災活用と高度化 ～過去を振り返り、これからを考える～, 東北大学理学研究科地震・噴火予知研究観測センターセミナー, 2008 年 8 月 26 日.
- 林能成, 名古屋大学の地震対策 ～防災訓練から緊急地震速報まで～, 東北大学理学研究科安全講習会, 2008 年 8 月 27 日.
- 林能成, 大学における防災力向上の取組について, 社会情報学会・東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター共催公開ワークショップ「総合防災情報と事業・業務継続計画」, 2008 年 9 月 12 日.
- 林能成・木村玲欧・大原祐一・荒川智也, 三重県南部における 1944 年東南海地震被災体験談の収集, 歴史地震研究会講演要旨集, p.3, 2008.
- 木村玲欧・林能成, 個人の被災体験を教訓化し防災教材にする試み～1944 年東南海地震・1945 年三河地震を事例として, 歴史地震研究会講演要旨集, p.4, 2008.
- Y.Hayashi, R.Kimura, T. Banno, T.Fujita, S.Didik, Y.Putri, E.Nani, M.Ando and M.Ishida, New Educational Materials for Disaster Preparedness using the Pictorialization of Personal Disaster Experiences, Asian Seismological Commission (ASC), X2-102, 2008.
- Y.Hayashi, Characteristics of the large tsunami observed by fishermen far away from

- the northern Sumatra coast during the 2004 Sumatra-Andaman earthquake, Workshop on Subduction Process along the Sumatra-Java arc, Tokyo, March 11, 2009.
- Y.Hayashi, Research on effective methodology for collecting and diffusing of disaster lessons, Kick-off Workshop of "Multi-disciplinary Hazard Reduction Program from Earthquakes and Volcanoes in Indonesia", Tokyo-Bandung, April 21, 2009.
- 林能成・安藤雅孝・中村衛・石田瑞穂, 津波目撃証言にもとづく 2004 年スマトラ-アンダマン地震におけるスマトラ島付近の断層モデルの推定, 地球惑星科学関連合同大会予稿集, S154-004, 2009.
- 林能成, 緊急地震速報を防災にいかすコツ～先駆者・新幹線の活用事例から学ぶ～, 関西大学社会安全学連続セミナー, 第 6 回, 2009 年 6 月 20 日.
- 林能成, 観測データを用いた防災教育の可能性と効果, JST/JICA 地球規模課題対応国際科学技術協力「フィリピン地震火山監視強化と防災情報の利活用推進」国内キックオフ研究集会, JICA 本部 (新宿) 12 階 12C 会議室, 2009 年 7 月 31 日.
- 林能成, 津波観測記録からの流体シミュレーションへの期待, 流体シミュレーション先端セミナー, 静岡大学教育学部 D308 室, 2009 年 8 月 8 日.
- 林能成・小澤邦雄, 1935 年静岡地震断層モデルの再検討, 歴史地震研究会, 明日都浜大津 4 階ふれあいプラザホール, 2009 年 9 月 12 日.
- 林能成・鈴木雄大・牛山素行・小山真人・里村幹夫・しずおか防災コンソーシアム, 2009 年 8 月 11 日駿河湾の地震における揺れ・備え・被害の実態解明のためのアンケート調査, 日本地震学会講演予稿集, P1-27, 2009 年 10 月 21 日.
- Y.Hayashi, Research on Effective Methodology for Collecting and Diffusing of Disaster Lessons in Japan and Indonesia, JICA Manila Kick-off Workshop, Quezon, Philippines, February 24, 2010.
- 林能成, 最新の観測データと過去の地震記録に基づく首都直下地震像の再検討に向けて, 首都直下地震防災・減災特別プロジェクト第 6 回全体ワークショップ, ホテルルポール麹町, 2010 年 3 月 30 日.
- Yasunobu Maeda: Risk path finder CUI: A light weight tool for profiling documents about risks, The Second World Congress on Risk, June, 2008.
- 前田恭伸・井田国宏・森保文・伊藝直哉・犬塚裕雅・浅野敏久・杉浦正吾, 環境ボランティア獲得のための情報システムの開発, 環境科学会 2008 年会, 2008 年 9 月.
- 前田恭伸・榎坂純一・森垣公雄, リモートセンサデータによる佐鳴湖流域の総合的分析, 環境科学会 2008 年会, 2008 年 9 月.
- 前田恭伸・豊田純一, リスク・パス・ファインダー 2・リスク文書の相互関係を視覚化するツール, 第 21 回日本リスク研究学会研究発表会, 2008 年 11 月.
- 中野崇司・松田和道・前田恭伸, 災害リスクコミュニケーションのための情報共有支援シ

- システムに関する研究, 第 21 回日本リスク研究学会研究発表会, 2008 年 11 月.
- Y. Maeda, S. Gendel, W. Long, M. Parish and D. Lei: Risk Path Finder for FoodRisk.org, Society for Risk Analysis 2008 Annual Meeting, December, 2008.
- Yasunobu Maeda: Risk communication support platform: Recent issues and lessons, Society for Risk Analysis 2008 Annual Meeting, December, 2008.
- Y. Maeda, T. Nakano, K. Matsuda: Information sharing support system for disaster risk communication, Asian Conference on Risk Assessment and Management 2009, May, 2009.
- 前田恭伸・森 保文・伊藝直哉・犬塚裕雅・浅野敏久・杉浦正吾・井田国宏, 環境ボランティア獲得のための情報提供システム, 環境科学会 2009 年会, 2009 年 9 月.
- 森 保文・犬塚裕雅・前田恭伸・浅野敏久・杉浦正吾, 街の美化活動への継続的参加とコスト・ベネフィットおよび機会の関係, 環境科学会 2009 年会, 2009 年 9 月.
- Yasunobu Maeda: Text Processing Techniques for Supporting Risk Management, 2nd International Conference on Risk Analysis and Crisis Response, October, 2009.
- 関澤純・濱田 (佐藤) 奈保子・蒲生恵美・前田恭伸, 食の安全と安心のギャップの分析と解決を目指して, 日本リスク研究学会第 22 回年次大会, 2009 年 11 月.
- Y. Maeda, T. Nakano and K. Matsuda: ASSARIS: an information sharing system for disaster risk communication, Society for Risk Analysis 2009 Annual Meeting, December, 2009.
- 伊藤英之・清水武志・松下智祥・小山内信智・鴨志田毅, 土砂災害に関する理解促進を目的とした普及・啓発ツールの開発とその効果, (社) 砂防学会研究発表会概要集, 522-523, 2008.
- 清水武志・伊藤英之・小山内信智(2008), ブランタス川流域における土砂移動に関する一考察. (社) 砂防学会研究発表会概要集, 314-315, 2008.
- H. ITOH, M. YOSHIDA, T. NAGAMAYA, and T. NANRI(2008); Experimental study of the snowmelt type lahar associated with volcanic eruption, IAVCEI general assembly, Reykjavik, Iceland, 2008.
- 田島靖久・松尾雄一・松岡暁・庄司達弥・伊藤英之・小林哲夫, 霧島火山群・えびの高原付近における最近 10,000 年間の噴火活動史, 日本火山学会秋季大会予稿集, p40, 2008.
- 伊藤英之・吉田真理夫・小山内信智・清水武志, 2008 年 2 月に桜島昭和火口で発生した fountain collapse 型火砕流, (社) 砂防学会研究発表会概要集, p188-189, 2009.
- 谷口綾子・藤井聡・柳田穰・小山内信智・小嶋伸一・伊藤英之・清水武志(2009), 土砂災害の避難行動誘発のための説得的コミュニケーション・プログラムの開発と効果検証, (社) 砂防学会研究発表会概要集, p38-39, 2009
- Mikio Satomura, Masato Koyama and Naoki Ikegaya : Education program and preparedness for the earthquake hazards in Shizuoka University, International

Program on the Restoration Program from Giant Earthquake and Tsunamis, Phuket, Thailand, (2008 年 1 月 23 日)

Mikio Satomura : Earthquake and tsunami --- Their mechanisms and mitigation of their disaster. The 2nd Technology and Innovation for Sustainable Development Conference (TISD2008) ,Khon Kaen, Thailand, (2008 年 1 月 28 日)

請井和之・里村幹夫・島田誠一・伍培明・橋爪道郎・橋本学・田中延亮・瀧澤英紀：タイ北部のGPS可降水量の変化. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会 (2008 年 5 月 28 日)  
坂井俊樹・楠本成寿・長尾年恭・里村幹夫・孫文科・大久保修平：地震間及び地震時重力変化検出に向けた静岡県内での精密重力測定と重力計定数の検定. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会. (2008 年 5 月 29 日)

内海さや香・濱啓恵・里村幹夫・原田靖・加藤照之・島田誠一・清水寧子・佐柳敬造・長尾年恭：東海地域の稠密GPS観測(第3報). 日本地球惑星科学連合 2008 年大会, (2008 年 5 月 29 日)

佐藤一敏・加藤照之・里村幹夫：東海地域における 10Hz リアルタイム GPS 観測・解析の試み. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会. (2008 年 5 月 29 日)

濱啓恵・里村幹夫・島田誠一・加藤照之・佐柳敬造：GPS 観測から求めた東海地域の短期的スロースリップ発生時の地殻変動. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会. (2008 年 5 月 30 日)

伊藤広和・新出陽平・田中穰・荒木春視・藤井陽一郎・里村幹夫・内海さや香・請井和之・島田誠一：ダイナミック四次元座標管理システム. 第 30 回測量技術発表会. (2008 年 6 月 18 日)

Mikio Satomura, Hiroe Hama, Seiichi Shimada, Teruyuki Kato and Keizo Sayanagi : Crustal movements caused by the short-term slow slip events in the Tokai region, central Japan, by using dense GPS net data. AOGS 2008 General Assembly. Busan, Korea, (2008 年 6 月 18 日)

Kazutoshi Sato, Tetsuya Iwabuchi, Teruyuki Kato, Mikio Satomura and Masayuki Kanzaki : True real-time GPS monitoring of high sampling data using by RTNet. AOGS 2008 General Assembly. Busan, Korea. (2008 年 6 月 19 日)

Manabu Hashimoto, Takeshi Katagi, Micho Hashizume, Mikio Satomura, Teruyuki Kato, Peiming Wu, Yuichi Otsuka, and Susumu Saito : Monitoring of Stress Relaxation and Transfer After the 2004 Sumatra-Andaman Earthquake by Space Geodesy. IAG International Symposium on Gravity, Geoid & Earth Observation 2008. Hania, Greece.(2008 年 6 月 27 日)

藤井陽一郎・里村幹夫・島田誠一・中尾茂：ダイナミック測地座標管理システムの開発. 日本測地学会第 110 回講演会. (2008 年 10 月 22 日)

里村幹夫・請井和之・杉田知大・濱啓恵・島田誠一・新出陽平・伊藤広和・田中穰：東海

- 地方の短期的スロースリップ時のF2解とダイナミック測地座標解の結果の比較. 日本測地学会第110回講演会. (2008年10月23日)
- 島田誠一・新出陽平・伊藤広和・荒木晴視・里村幹夫: GEONET全点連日自動解析システムの開発. 日本測地学会第110回講演会. (2008年10月23日)
- 中尾茂・島田誠一・里村幹夫・新出陽平・伊藤広和: BerneseとGAMITによるGEONET解析結果の比較. 日本測地学会第110回講演会 (2008年10月23日)
- 橋本学・福島洋・片木武・橋爪道郎・里村幹夫・伍培明・加藤照之: 宇宙測地技術で捉えたスマトラ-アンダマン弧の地殻変動. 日本測地学会第110回講演会. (2008年10月23日)
- 里村幹夫・濱啓恵・杉田知大・生田領野・藤井直之・島田誠一・加藤照之・原田靖: GPSから求めた東海地方の短期的スロースリップ時の地殻変動. 日本測地学会第110回講演会. (2008年10月24日)
- Mikio Satomura, Hiroe Hama, Seiichi Shimada, Teruyuki Kato and Keizo Sayanagi : GPS has detected sub-mm level displacements --- The short-term slow slip in the Tokai Region by using dense GPS observation net data. GPS/GNSS International Symposium 2008, (2008年11月12日)
- Manabu Hashimoto, Yo Fukushima, Takeshi Katagi, Michio Hashizume, Mikio Satomura, Peiming Wu and Teruyuki Kato : Monitoring of crustal deformation in the Sumatra-Andaman Arc with Space Geodesy. The 7th General Assembly of Asian Seismological Commission, (2008年11月27日)
- Mikio Satomura, Hiroe Hama, Tomohiro Sugita, Ryoya Ikuta, Naoyuki Fujii, Seiichi Shimada, Teruyuki Kato and Yasushi Harada : The crustal movements associated with the short-term slow slip events in the Tokai region by using dense GPS observation net data. The 7th General Assembly of Asian Seismological Commission. (2008年11月27日)
- Mikio Satomura : Educational program on the disaster study in Shizuoka University. The 3rd Joint International Forum "Regarding Global Environment and International Education in the 21st Century", (2008年12月5日)
- Manabu Hashimoto, Yo Fukushima, Takeshi Katagi, Michio Hashizume, Mikio Satomura, Peiming Wu, and Teruyuki Kato, Deformations Associated With Large Interplate Earthquakes Along the Sumatra-Andaman Subduction Zone., 2008 Fall Meeting, American Geophysical Union, (2008年12月15日)
- 海老原裕子・里村幹夫・島村航也・生田領野・島田誠一・橋本学・橋爪道郎・伍培明・加藤照之: GPS観測によるスマトラ沖地震に伴う広域余効変動. 日本地球惑星科学連合2009年大会. (2009年5月18日)
- 下中恵理・里村幹夫・請井和之・島田誠一・伍培明・橋爪道郎・Sununtha Kingpaiboon・

- 橋本学. タイにおけるGPS可降水量の解析. 日本地球惑星科学連合 2009 年大会. (2009 年 5 月 18 日)
- 杉田知大・里村幹夫・生田領野・請井和之・島田誠一・加藤照之・原田 靖 : GPS 観測から求めた東海地域の短期的スロースリップ発生時の地殻変動 (続報). 日本地球惑星科学連合 2009 年大会. (2009 年 5 月 19 日)
- 島田誠一・里村幹夫・新出陽平・伊藤広和 : GEONET 全点連日自動解析システムの開発 (その 2). 日本地球惑星科学連合 2009 年大会. (2009 年 5 月 21 日)
- 橋本 学・福島 洋・片木 武・橋本道郎・里村幹夫・伍培明・大塚雄一・石井守・加藤照之 : 東南アジアにおけるスマトラ - アンダマン地震の 3 年半の余効変動. 日本地球惑星科学連合 2009 年大会. (2009 年 5 月 21 日)
- Mikio Satomura, Hiroe Hama, Tomohiro Sugita, Ryoya Ikuta, Kazuyuki Ukei, Seiichi Shimada, Teruyuki Kato, Yasushi Harada : GPS has detected 1mm level displacement - The short-term slow slip by using dense GPS observation net data in the Tokai Region, central Japan. Geodesy for Planet Earth, IAG 2009 , (2009 年 9 月 1 日)
- 落 唯史・加藤照之・里村幹夫・原田 靖 : 2009 年 8 月 11 日駿河湾の地震のプレート間固着に与える影響の考察. 日本地震学会 2009 年度秋季大会. (2009 年 10 月 21 日)
- 加藤照之・福田淳一・落 唯史・横田裕輔・里村幹夫・請井和之・原田 靖・佐藤一敏 : 東海稠密アレイGPSから見た 2009 年 8 月 11 日駿河湾の地震. 日本地震学会 2009 年度秋季大会. (2009 年 10 月 21 日)
- 請井和之・里村幹夫・松村正三・島田誠一・加藤照之・原田 靖 : 東海地震のアスペリティの推定とひずみの時間変化. 日本地震学会 2009 年度秋季大会. (2009 年 10 月 22 日)
- 佐藤一敏・小畑弘毅・里村幹夫・加藤照之 : 東海地域における高サンプリングリアルタイムGPS観測・解析の試み - Part.II. 2009 年 8 月 11 日駿河湾地震における地震時変動の解析 - . 日本測地学会第 112 回講演会. (2009 年 11 月 4 日)
- 中尾茂・島田誠一・里村幹夫・新出陽平・伊藤広和 : Bernese と GAMIT による GEONET 解析結果の比較(2008 年 9 月 1 日~2009 年 3 月 31 日). 日本測地学会第 112 回講演会. (2009 年 11 月 5 日)
- Teruyuki Kato, Junichi Fukuda, Tadafumi Ochi, Yusuke Yokota, Mikio Satomura, Kazuyuki Ukei, Yasushi Harada, Kazutoshi Sato : The Suruga-Bay earthquake of August 11, 2009, as seen from dense GPS observation network in the Tokai district, Japan. 2008 Fall Meeting, American Geophysical Union, (2009 年 12 月)
- 里村幹夫 : 静岡大学での学生防災組織とその活動—その成立過程と問題点—. 第 2 回地域防災力と学生消防組織シンポジウム. (2010 年 2 月 10 日)
- Ikegaya N, Yoshida T, Yamamoto T, Hishida A, Ohkawa S, Kumagai H. Effects of Relaxin on the development of mesangial proliferative nephritis American Society of

Nephrology. 2008 年 11 月 8 日

Yoshida T, Ikegaya N, Ohkawa S, Yamamoto T, Hishida A, Kumagai H. Relaxin attenuates renal ischemia reperfusion injury. American Society of Nephrology, 2009 年 11 月 1 日

富永良喜・高橋哲・小林朋子・吉沅洪・前田潤・斎藤和樹：災害支援への支援の実際－中国四川大地震心のケア報告－, 日本心理臨床学会第 27 回大会発表論文集,P22,2008 年 9 月 3 日.

小林朋子：災害時における障害のある子どもを持つ家族支援のための調査研究(3)－子どもの障害の種類に応じた支援について－, 日本特殊教育学会第 46 回大会発表論文集,P702,2008 年 9 月 21 日.

Kobayashi,T. Yuanhong Ji, Tominaga,Y. & Takahashi,S.:Japanese Psychological First Aid of Sichuan earthquake in China, American Psychological Association 117th convention,P343, 2009 年 8 月 5 日.

尾崎未希・小林朋子:小学生を対象とした「災害後のストレス」による心身の変化に対処するための啓発プログラム,日本教育心理学会第 51 回総会発表論文集,P291,2009 年 9 月 20 日,

織田島純子・岡寄順子・小澤康司・小林朋子・吉沅洪・矢嶋郁代・高橋哲・富永良喜:四川大地震における日本チームによる支援(1)－支援者支援におけるセルフケア手法としての臨床動作法－,日本心理臨床学会第 28 回秋季大会発表論文集,P170,2009 年 9 月 20 日.

吉沅洪・小林朋子・小澤康司・岡寄順子・織田島純子・矢嶋郁代・高橋哲・富永良喜:四川大地震における日本チームによる支援(2)－コーディネータの活動を中心に－,日本心理臨床学会第 28 回秋季大会発表論文集,P171,2009 年 9 月 20 日.

矢嶋郁代・小林朋子・富永良喜・高橋哲・吉沅洪・小澤康司・岡寄順子・織田島純子:四川大地震における日本チームによる支援(3)－チーム内での後方支援のあり方について－, 日本心理臨床学会第 28 回秋季大会発表論文集,P172,2009 年 9 月 20 日.

小澤康司・小林朋子・岡寄順子・織田島純子・矢嶋郁代・吉沅洪・高橋哲・富永良喜：四川大地震被災地における日本チームの支援による効果について－心のケア支援者研修プログラムの実践と効果－,日本心理臨床学会第 28 回秋季大会発表論文集,P416,2009 年 9 月 20 日.

小林朋子・小澤康司・岡寄順子・織田島純子・矢嶋郁代・吉沅洪・高橋哲・富永良喜：四川大地震被災地における支援者の二次的外傷性ストレスの実際－被災地で心のケアを行った支援者に関して－,日本心理臨床学会第 28 回秋季大会発表論文集,P417,2009 年 9 月 20 日.

高橋哲・小林朋子・小澤康司・岡寄順子・織田島純子・矢嶋郁代・吉沅洪・高橋光恵・富永良喜四川大地震被災地における日本チームによる支援の実際(1)－綿竹避難キャンプでの活動－,日本心理臨床学会第 28 回秋季大会発表論文集,P10,2009 年 9 月 21 日.



岡寄順子・小澤康司・小林朋子・織田島純子・矢嶋郁代・吉 沅洪・高橋哲・富永良喜  
川大地震被災地における日本チームによる支援の実際(2)―研修でであった事例、および  
配慮した点―,日本心理臨床学会第 28 回秋季大会発表論文集,P117,2009 年 9 月 21 日.  
小林朋子:新潟県中越地震 5 年後の小中学校教師の外傷性ストレス,日本トラウマティック  
ストレス学会発表論文集,2010 年 3 月 5 日.

#### 2.2.4 その他の著作物

- 小山真人:日本の活火山(2)富士山,砂防と治水,42,59-60,2009.
- 牛山素行:"非理系"災害研究者からみた自然災害科学 1. 本企画の趣旨,自然災害科学,  
Vol.27, No.2, pp.113-120, 2008.
- 牛山素行・矢守克也:"非理系"災害研究者からみた自然災害科学 5. 対談"理系"・"非理系"  
連携による災害科学研究のこれから,自然災害科学, Vol.27, No.2, pp.137-146, 2008.
- 牛山素行:思い込みに気をつけよう,消防科学と情報,2008 年秋号(No.94), pp.4-6, 2008.
- 牛山素行:ワークショップ企画や災害調査に役立つ地域調査演習 1 防災ワークショップと  
は,月刊地理,古今書院, Vol.54, No.1, pp.46-53, 2009.
- 牛山素行:ワークショップ企画や災害調査に役立つ地域調査演習 2 地域調査の基礎資料を  
さがす,月刊地理,古今書院, Vol.54, No.2, pp.49-53, 2009.
- 牛山素行:ワークショップ企画や災害調査に役立つ地域調査演習 3 対象地域の位置と人口  
の概要,月刊地理,古今書院, Vol.54, No.3, pp.112-116, 2009.
- 牛山素行:ワークショップ企画や災害調査に役立つ地域調査演習 4 対象地域の略図を作る,  
月刊地理,古今書院, Vol.54, No.4, pp.91-95, 2009.
- 牛山素行:ワークショップ企画や災害調査に役立つ地域調査演習 5 地域の自然条件を調べ  
る その 1 地形,月刊地理,古今書院, Vol.54, No.5, pp.107-114, 2009.
- 牛山素行:ワークショップ企画や災害調査に役立つ地域調査演習 6 地域の自然条件を調べ  
る その 2 気象/河川,月刊地理,古今書院, Vol.54, No.6, pp.76-81, 2009.
- 牛山素行:平成 20 年 8 月末豪雨から考えること,消防科学と情報,2009 年春号(No.96),  
pp.28-32, 2009.
- 牛山素行:ワークショップ企画や災害調査に役立つ地域調査演習 7 対象地域の自然災害に  
関する調査 その 1,月刊地理,古今書院, Vol.54, No.7, pp.113-115, 2009.
- 牛山素行:ワークショップ企画や災害調査に役立つ地域調査演習 8 対象地域の自然災害に  
関する調査 その 2,月刊地理,古今書院, Vol.54, No.8, pp.112-115, 2009.
- 牛山素行:ワークショップ企画や災害調査に役立つ地域調査演習 9 現地での調査,月刊地  
理,古今書院, Vol.54, No.9, pp.111-116, 2009.
- 牛山素行:ワークショップ企画や災害調査に役立つ地域調査演習 10 現地での調査 その  
2,月刊地理,古今書院, Vol.54, No.11, pp.51-55, 2009.
- 牛山素行:ワークショップ企画や災害調査に役立つ地域調査演習 11 聞き取り調査,月刊地

- 理, 古今書院, Vol.54, No.12, pp.92-98, 2009.
- 林能成:地震の事前避難に必要なことー1945年三河地震の事例から学ぶー, 避難科学の会報告書, 2008.
- 林能成:地震にそなえる, 天白子育て情報通信 PAKU っ子, 2008年9月号, 2008.
- 林能成・安藤雅孝・石田瑞穂・Didik Sugiyanto:津波遭遇条件が避難に与える影響〜バンダアチェ周辺における聞き取り調査からの考察〜, 名古屋大学環境学研究科 2004年北部スマトラ地震調査報告IV, p.75-82, 2008.
- 林能成:津波発生プロセスを解明するための新データの取得〜系統的な津波目撃証言の収集からかわること〜, 名古屋大学環境学研究科 2004年北部スマトラ地震調査報告V, p.124-133, 2009.
- 村越 真:空間知覚・認知のモデル化に対する生態学的視点の重要性 (誌上討論 空間の知覚と認知のモデル), 認知科学, 15(4), (58), 695-698, 2008.
- 村越 真:ナビゲーションの地図読み, 地理, 55, 2010.
- 里村幹夫:震災軽減には土地家屋調査士が重要. 土地家屋調査士, 情報スクランブル, 平成20年9月号, No.620, p.26. 2008.
- 小林朋子:地震と子どもたちのストレスー安心・安全を実感させてー, ファミリス, 192 P13-14, 2009.

### 3 学内教育活動

#### 3.1 学際科目「地震防災」

地震防災は、さまざまな分野にまたがる総合科学であり、東海地震の発生が危惧されている静岡県で生活する学生にとってこれを学ぶことは必要不可欠である。地震に備えて普段から何をやっておくべきなのか、また地震発生時には何をすべきなのか、地震発生時に生き延びるための基礎知識など地震防災科学を総合的に学ぶことを目標にかかげ2004年度から本講義が開講されている。講師陣は大学の研究者ばかりでなく、行政やメディア関係者など幅広い分野で地震防災に関係している人が担当している。2009年度からは浜松キャンパスでの開講もはじまり、前期に静岡・浜松と2講座、後期に静岡（昼間・夜間）の2講座、年間で合計4講座が開講された。受講者は計300人を超え、静岡大学の人気講義の1つとなっている。

以下に一例として2009年度・静岡地区（後期）の講義内容一覧を掲げる。

1	10月5日	地震防災科学の基礎	林能成	静大
2	10月19日	地震の直前予知	長尾年恭	東海大海洋
3	10月26日	地震の長期予測とリスク評価	狩野謙一	静大
4	11月2日	東海地震とはどんな地震か	小山真人	静大
5	11月9日	地震による災害1：都市災害	外山知徳	静大（名誉教授）
6	11月16日	地震による災害2：土砂災害	土屋智	静大
7	11月30日	震災と経済	山本義彦	静大・副学長
8	12月7日	災害と情報	牛山素行	静大
9	12月14日	地震・災害のリスクとその認知	村越真	静大
10	12月21日	地震防災行政	近藤聡	静岡県庁
11	1月6日	災害報道	岩崎大輔	静岡放送
12	1月18日	災害ボランティア活動	笠原英男	ボランティアリーダー
13	1月25日	災害時の医療	池谷直樹	静大
14	1月28日	災害による心理障害	古橋裕子	静大
15	2月1日	地震と共に生きる	林能成	静大

### 3.2 新入生セミナー

静岡大学では新入生全員を対象として、「大学生活における健康管理に関する啓発」、「キャンパスや学外での安全な過ごし方の習得」、「防災意識の涵養と防災教育に関する啓発」、及び「ハラスメントに関する啓発」を目的として、「健康・安全・安心・快適な大学生活講座」を実施している。同講座は、全新生が受講する「新入生セミナー」という科目の一部として実施されている。

当センターでは、同講座の一部として、「地震防災のすすめ」というタイトルで、1回45分の講義を分担した。主な内容は下記の通りである。

地震とは	地震と震災
震度と揺れの状態(2009年現在)	マグニチュード
日本付近のプレート	プレート境界地震と内陸地震
東海地震・南海地震の発生史	東海地震の震度予測
津波発生のメカニズム	平成5(1993)年北海道南西沖地震津波
東海地震の津波予測	1854年安政東海津波の推定浸水域
津波浸水想定図(清水港周辺)	津波浸水想定図(浜名湖・天竜川周辺)
東海地震の予知	緊急地震速報
自然災害の分類	河川洪水
土石流	静岡市清水区の洪水ハザードマップ
浜松市中心部の洪水ハザードマップ	これらが「災害への備え」?
大災害発生時に一番大事なこと	大学生は地震災害弱者
ほとんどの人が即死だった	凶器はマイホームだった!!
地震で死なないために	ケガするとトリアージ
クラッシュ症候群にも注意	大災害が発生したら
電話の輻輳	災害用伝言ダイヤル171
災害用伝言板(携帯電話)	公衆電話
「万能な備え」なんてない	「備え」は自分で考える
これだけは記憶にとどめて	

図 3-1 新入生セミナー一度使用した主なスライドのタイトル

平成21年度の受講者は、静岡キャンパス1,245名、浜松キャンパス735名だった。講義は、静岡地区5回、浜松地区3回で、里村、小山、林、牛山の4名で分担実施した。各日とも、45分×2回を担当している。

### 3.3 全学防災訓練

静岡大学では、大規模地震対策特別措置法（1978年制定）の定めるところにより、全学一斉の地震防災訓練を毎年実施している。この訓練は全学防災対策委員会の企画・指導の下で各部局が実施しているが、訓練内容の固定化やマンネリ化を防ぐために、静岡大学防災総合センターが企画立案やインストラクター派遣などの面で協力している。

2008年度訓練（2008年10月21日）では、教育学部において防災教育ゲーム「クロスロード」を企画・実施したほか、人文学部においてトリアージ（災害時における治療優先度判別）訓練を実施した。講師はいずれも本センターの併任・客員教員が務めた。

2009年度訓練（2009年11月6日）では、県内広域に被害を与えた2009年8月11日の駿河湾の地震（マグニチュード6.5）に関する講演を、教育学部・理学部・人文学部において実施した。いずれも講師は本センターの専任・併任教員が務めた。



写真 3-1 2008年度静岡大学全学防災訓練（教育学部会場）の様子。

### 3.4 健康体育学

静岡大学では1年次の学生を対象にした「健康体育学ⅠⅡ」を前期・後期で開講しており、様々なスポーツ・健康に関わる種目が選択式で開講されている。22年度は試行的な試みとして、このうち教育学部を対象とするコマに、「健康と安全のライフスキル」という名称で、防災に関するスキルを含む授業を開講することとなった。すでに講義としては「地震防災」が全学的に行われているが、本授業は実技を主体とし、防災の実践的スキルを高めることに中心的な主眼をおいている。

教育学部卒業生は、本県の教員になるものも多く、学生が在学中に防災のためのスキルを学習することは、本人の生命のみならず、多くの児童・生徒の生命を守ることにもつながると考えられる。また、防災に必要なスキルは日常的な安全・健康を維持するスキルにも密接に関連するので、健康体育学の主旨とも合致することから、本選択種目が取り入れられることとなった。

センター兼任の村越を全体とりまとめ訳として、池谷、笠原、小林が、それぞれの専門の立場から、講義・実技を担当する。

主な内容としては、1) 様々な条件下でのサバイバルハイクやチームビルディング、2) 野外調理、3) 竹細工、4) ロープワークやシェルター作成、5) ストレスマネジメントの技術、6) 基本的な人体の生理学と、救急処置の実際、心肺蘇生処置、などを予定している。野外活動感覚で楽しみながら、防災に関連する知識やスキルを学習することを狙っている。

なお以下の写真は、本実技の内容の一部を取り入れている村越の健康体育学から取ったものである。22年度は、上記のような内容を実施しながら学生の反応と教育効果を検討し、今後の実技系防災科目の実施につなげていく予定である。



写真 3-2 左から竹細工、オリエンテーリング(地図を読みながらのハイキング)、野外調理

### 3.5 駿河湾の地震の被災地見学会

2009年8月11日05時07分に起きた駿河湾の地震（マグニチュード6.5）は、牧之原市・焼津市・御前崎市・伊豆市で震度6弱が観測され、広い範囲で道路・港湾・石造物・建物等の被害が発生した。県内での震度6以上の揺れは1944年東南海地震以来のできごとである。

本センターでは、この地震に関する震度・被害・防災意識等の調査研究を実施するとともに、これを学生教育の絶好の機会としてとらえ、各教員の調査に同伴する形で同年8月から10月上旬にかけて被災地各所の見学会を数回実施した。主な対象は、本センターの専任および併任教員の研究室に所属する大学院生および学部生のべ20名程度である。主な見学地点は以下の通り：東名高速道路の大規模盛り土崩壊箇所、液状化による相良港の突堤の被害、山間地の路面崩落箇所（以上、牧之原市内）、焼津市および静岡市内の石造物の被害、牧之原市・焼津市・吉田町・静岡市内各所の家屋の屋根瓦被害。



写真 3-3 2009年8月11日の駿河湾の地震による相良港の突堤の被害。

## 4 プロジェクト・関連行事

### 4.1 地域社会と連携した研究成果・防災知識の発信

本センターでは、静岡県庁、静岡地方気象台などをはじめとする地元行政機関や、各種地域団体と連携し、防災科学に関する最新の研究成果や基礎的な防災知識を共有するための組織作り、行事实施、講演など様々な取り組みを行っている。以下に最近実施された主な取り組みを紹介する。

#### 4.1.1 サイエンスフェスティバル in る・く・る 2009

2009年8月8～16日に開催された「青少年のための科学の祭典・サイエンスフェスティバル in る・く・る」に8月8～9日の2日間出展した。

展示構成は2つとし、大型の富士山立体レリーフマップを用いた「キッチン火山学実験」と、擬似ジレンマ体験ゲーム「クロスロード」を展示用にアレンジしたものを準備した。キッチン火山学実験では、実験用シリンジ（注射器）に入れたチョコレートやメープルシロップを用いた溶岩流シミュレーションや、ココアパウダー火山灰と霧吹き降雨で、噴火後の土石流発生メカニズムなどのシミュレーション実験を行った。

また、クロスロードでは、主に地震直後の行動について小学生の視点から問題を作成し、被災直後に対面するであろう様々なジレンマを疑似体験させる試みを行った。当日は、小学生を中心として、多くの参加者があり、一時は実験の順番待ちができるほどの大盛況であった。



写真 4-1 クロスロード(左)・キッチン火山学実験(右)の様子



#### 4.1.2 「震災対策技術展/自然災害対策技術展」静岡

2009年4月24日(金)～25日(土)の2日間、ツインメッセ静岡において、第1回「震災対策技術展/自然災害対策技術展」静岡が開催された。主催は第1回「震災対策技術展/自然災害対策技術展」静岡実行委員会で、運営には事務局としてエグジビションテクノロジー株式会社があたった。実行委員会委員長を本センターの里村が務めた。

この技術展の開催の目的は、東海地震において多大な被害を受けることが想定されている静岡県において、県民のさらなる防災意識の向上や、行政や企業における防災対策への取り組みを推進するため、防災に関する最新の技術・情報の収集・共有を図ることである。そのために、今後の防災活動に資するよう、静岡県内外から防災対策に関する情報・技術を展示することとした。

今回の技術展の出展者は61団体であった。また各出展社ブースへの訪問者は最高で500人、平均178人であった。

静岡大学防災総合センターの展示ブースでは、センター紹介のポスターの展示やセンター教員が出演しているテレビニュース番組のビデオを流すとともに、防災総合センターのパンフレットを配布し、センターの活動の広報に務めた。

また、この技術展の一環として、同会場で90分から120分のシンポジウム・セミナーが8件、45分間の震災対策講演会が11件開催され、シンポジウム・セミナーのうち3件を本センターが主催した。

- ・「東海地震研究の現状と発生の可能性」 コーディネータ 里村幹夫  
講演「歴史に学ぶ東海地震津波の特性と教訓」 講師 小山真人
- ・「最近の豪雨災害と災害情報をめぐって」 コーディネータ 牛山素行  
講演「最近の日本の豪雨災害と災害情報を巡る諸課題」 講師 牛山素行
- ・「災害時の医療―命を守るために―」 コーディネータ 池谷直樹  
講演「災害ボランティア活動からDMAT支援隊の立ち上げまで」 講師 笠原英男  
講演「静岡大学における防災教育について」 講師 池谷直樹

本展示会の来場者数は、入場時に受付で登録したのが24日が1283名、25日が917名であった。来場者の業種は、多い順に「国・中央官庁・地方自治体」、「各防災メーカー商社」、「マンションビル管理会社・不動産建設設計会社、工務店」、「民間会社の防災担当者」、「協会・組合・自治会・自主防災組織」がそれぞれ約15%ずつを占め、「公共・商業・病院・介護施設」、「消防・警察・防衛機関」、「教育・学校・研究機関」と続き、幅広い業種からの参加者があった。

#### 4.1.3 DMAT のロジスティクス講習会

2009年3月1日に、静岡大学防災総合センター（地域連携・ボランティア部門）主催で、DMAT 支援隊静岡共催の DMAT 支援ロジスティック講習会が開催された。

厚生労働省が組織した、超急性期の災害医療を担当する DMAT（ディザスター・メディカル・アシスタンス・チーム）が必要とする「ロジスティクスの現状と課題について」について、独立行政法人国立病院機構災害医療センターより講師をお招きして講習会を開催した。病院以外で行われるのは、初めてである。午後には、東海地震の発生を想定したシミュレーションも行った。「DMAT の基本コンセプト、DMAT 実働事例と広域医療搬送」などについても合わせて講義をして頂いた。これを機会に DMAT の目的と役割と行動を正しく理解し、DMAT を支援する支援隊の役割を明確にして今後の活動に生かしていくように考えている。DMAT 静岡・DMAT 支援隊静岡の隊員をはじめとして、静岡県立総合病院・県西部医療センター・浜松医科大学・静岡済生会病院など医療関係者の他、県庁職員から鈴木・トヨタカローラ・災害ボランティア静岡など一般の方まで 70 名を超える参加者、見学者にお集まりいただいた。

#### 講師

小井戸 雄一 講師	国立病院機構災害医療センター・臨床研究部長
本間 正人 講師	国立病院機構災害医療センター・救命救急センター部長
楠 孝司 講師	国立病院機構災害医療センター・教育研修室長
近藤 久禎 講師	日本医科大学武蔵小杉病院・助教
佐藤 和彦 講師	国立病院機構災害医療センター・看護師長
安田 清 講師	静岡県立総合病院副院長
池谷 直樹 講師	静岡大学保健管理センター所長 DMAT 支援隊隊長



写真 4-2 DMAT 支援ロジスティック講習会当日の様子

#### 4.1.4 しずおか防災コンソーシアム・土曜セミナー

静岡県では県危機管理部，教育委員会および静岡大学，浜松医科大学，静岡県立大学，静岡文化芸術大学，東海大学，富士常葉大学の県内 6 大学，気象台，報道機関各社を加えた「しずおか防災コンソーシアム」が平成 21 年 4 月に発足した。

このコンソーシアムは，県内の防災に携わる研究者と専門家等の多面的な交流や情報発信を目的としており，その一環として，市民向け公開講座「しずおか防災コンソーシアム地域連携土曜セミナー」を定期的に開催している。コンソーシアムの準備段階からこのセミナーは始まり，平成 20 年度および平成 21 年度に合計 25 回開催し，現在も続けて開催している。平成 22 年 3 月にはこれまでの講演の中から，本セミナーの特徴である大学，行政，メディアを代表する講演を収録した講演録も作成し，広くセミナー参加者などに配布している。

##### ●第 1 回から平成 21 年度までのセミナー一覧

- 第 1 回 平成 20 年 6 月 3 日 (中国四川省地震緊急報告会) 静岡大・林愛明
  - 第 2 回 平成 20 年 6 月 28 日 静岡大・小林朋子，静岡大・吉田明夫，静岡県・岩田孝仁
  - 第 3 回 平成 20 年 7 月 26 日 静岡大・里村幹夫，砂防フロンティア・井上公夫
  - 第 4 回 平成 20 年 8 月 30 日 東海大・長尾年恭，静岡県立大・湯瀬裕昭
  - 第 5 回 平成 20 年 9 月 13 日 名古屋大・山岡耕春，作家・石黒耀
  - 第 6 回 平成 20 年 9 月 27 日 富士常葉大・小川雄二郎，静岡大・池谷直樹
  - 第 7 回 平成 20 年 11 月 1 日 (地震防災フォーラム) 東大名誉教授・阿部勝征，リケン・藤井多加志
  - 第 8 回 平成 20 年 11 月 29 日 岩手県立大・牛山素行，静岡大・林能成
  - 第 9 回 平成 20 年 12 月 6 日 アメリカ合衆国 FEMA・クラーク・A・バートン
  - 第 10 回 平成 20 年 12 月 20 日 静岡大・小山真人，富士常葉大・田中聡
  - 第 11 回 平成 21 年 1 月 10 日 元静岡新聞社・川端信正，ボランティアリーダー・笠原英男
  - 第 12 回 平成 21 年 2 月 7 日 富士常葉大・重川希志依，静岡大・藤井直之
  - 第 13 回 平成 21 年 3 月 21 日 富士常葉大・池田浩敬，静岡大・伊藤英之
  - 第 14 回 平成 21 年 4 月 18 日 静岡県・星野浩二
  - 第 15 回 平成 21 年 5 月 16 日 泌尿器科医・影山慎二
  - 第 16 回 平成 21 年 6 月 20 日 富士常葉大・高島正典
  - 第 17 回 平成 21 年 7 月 18 日 静岡文芸大・池上重弘
  - 第 18 回 平成 21 年 8 月 1 日 静岡大・牛山素行
  - 第 19 回 平成 21 年 9 月 19 日 東海大・坂本泉
- (8.11 駿河湾沖地震緊急報告会) 静岡大・小山真人，静岡地方気象台・永井章，静岡大・

生田領野，静岡県・岩田孝仁，静岡県・渋谷信明，静岡大・土屋智，静岡県・大石武司，  
静岡大・牛山素行

第 20 回 平成 21 年 10 月 17 日 名古屋大・山本章夫

第 21 回 平成 21 年 11 月 28 日 静岡県立大・江原勝幸

第 22 回 平成 21 年 12 月 19 日 富士常葉大・小村隆史

第 23 回 平成 22 年 1 月 16 日 浜松医大・古本尚樹

第 24 回 平成 22 年 2 月 13 日 静岡大・林能成

第 25 回 平成 22 年 3 月 20 日 東海大・織原義明

写真 4-3 講演録と土曜セミナーの案内チラシ

#### 4.1.5 しずおか防災コンソーシアム・マスコミ防災研究会

しずおか防災コンソーシアムでは、その活動の一環としてコンソーシアムの構成員のうち、主として報道機関の防災に対する理解のさらなる向上と、県内大学、県庁、気象台などの防災関係機関との一層の連携を図ることを目的とし、「マスコミ防災研究会」を立ち上げた。同研究会のメンバーとしては、しずおか防災コンソーシアムの構成員(構成機関)に所属し、報道機関及び防災研究・教育機関関係者を中心として参加を希望する者とした。

同研究会の内容としては、コンソーシアムを構成する各大学等から話題提供者を出し、最新の研究成果などを紹介し、ディスカッションを行う研究会を行うことを基本的なスタイルとする。この研究会は広く一般に公開するものではなく、原則としてコンソーシアム構成機関に所属するものを参加者としている。メディア関係者が参加するが、研究会での話題提供はオフレコを原則とし、報道する場合は研究会終了後に話題提供者に対してあらためて取材を申し込むことを申し合わせている。このようなスタイルにするのは、より本音での議論を通して、お互いの知識、理解を深めることを狙いとしているためである。

防災総合センターでは、同研究会事務局の静岡県危機管理局と協力し、研究会の話題提供者選定などの運営面に貢献している。これまでに、下記3回の研究会が開催された。

2009年7月10日

「地域防災力向上のための行政・大学・メディア連携」

林能成(静岡大学防災総合センター・准教授)

2010年1月21日

「2009年の豪雨災害の概要とその教訓」

牛山素行(静岡大学防災総合センター・准教授)

2010年4月22日

「コミュニティ防災を考える」

小村隆史(富士常葉大学環境防災学部・准教授)

また、2009年12月19日には、関西大学で開催された「第一回 メディア&研究者&行政担当者による合同減災シンポジウム」に、研究会メンバー複数に参加した。このシンポジウムには、同研究会と類似した趣旨で活動している「仙台ライフラインネットワーク」、「マスメディアと研究者のための地震災害に関する懇話会<通称：NSL>」、「関西なまぜの会」と同会の4グループが参加し、互いの活動内容など意見交換を行った。

#### 4.1.6 日本災害情報学会第10回研究発表大会

日本災害情報学会は、「災害情報」をキーワードに、防災・減災に役立つ災害情報や、その伝達・受容のあり方などを調査・研究し、その成果を社会に提言することを目的に1999年4月に設立された学会である。同学会の第10回研究発表大会が2009年に静岡地区で開催されることとなり、防災総合センター併任教員の小山真人教授を大会実行委員長、専任教員の牛山素行准教授を同副委員長として、運営に当たった。

研究発表大会は2009年10月24日および25日に、静岡大学及び静岡県地震防災センターを会場として開催された。両日の合計で58件の口頭発表が行われ、188名が参加した。今大会では、初めての試みとして大会開催に合わせて一般向けの講演会を行い、地震防災対策強化地域判定会会長でもある阿部勝征同学会会長(当時)により、「懸念される巨大地震と予知の現状」の演題で講演が行われた。

#### 4.1.7 文部科学省防災教育支援推進プログラム「防災教育支援事業」

自然災害による被害の軽減には、国民一人ひとりが、事前の準備や災害発生時の行動における、適切な対応を身につけることが不可欠であり、こうした能力の向上を図るため、社会全体における防災教育が果たす役割は極めて大きい。しかし、防災教育に関する取組は、人材や教材の不足等により、地域的な差異が大きく、全国的に見ると不十分と考えられてきた。このような背景から文部科学省では平成20年度から防災教育支援推進プログラム・防災教育支援事業に着手し、全国の大学や地方公共団体に企画の公募を行い、平成20年度8件（釜石市、人と防災未来センター、山口大学、愛媛大学、東京大学、香川大学、北海道大学、環境防災総合政策研究機構）が採択されたのに続けて、平成21年度も事業の公募を行った。静岡大学では本事業に応募し、気仙沼市、雲仙岳災害記念館、阿蘇火山博物館、徳島県と並んで採択された。

本事業では静岡県のおかれた災害環境＝地震災害と津波災害がほとんど時間差なく連続して起こる、に着目した、防災教材の作成、教員向け研修、実践的な学校教育プログラムの開発に着手した。今年度は静岡県の防災教育推進校に指定されている新居小学校において、地域特性を踏まえた防災教材の開発や、こころのケアのための教員研修などを行った。



写真 4-4 2009年11月18日の教員研修で講演する小林朋子准教授(センター併任)

#### 4.1.8 「クロスロード」ファシリテータ養成講座

防災教育ゲーム「クロスロード」は、災害に関するジレンマを仮想体験することによって、防災の基礎知識や災害時の判断力を磨く優れたツールである（矢守ほか，2005，防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション，ナカニシヤ出版）。

本センターは静岡県防災局（現・危機管理部）と協力して、クロスロードのファシリテータ（ゲーム実施者）を養成する講座を2009年1月27日に静岡県地震防災センターにおいて開催した。講師は、クロスロード考案者のひとりである慶應義塾大学の吉川肇子准教授をお招きした。参加者は70名、内訳は県内市町の防災担当者31名、県小・中・高校教員22名、県地域防災局職員14名、国土交通省富士砂防事務所職員2名などである。講座の中身は基礎講義とクロスロードゲームの体験実習であり、参加者にはクロスロードファシリテータ初級の認定証が交付された。



写真 4-5 「クロスロード」ファシリテータ養成講座の様子。



## 4.2 防災教材の開発とアーカイブ

本センターの目標のひとつとして、学校や市民に向けた魅力的な防災教材を開発・提供することと、そうした教材も含む防災知識・情報のアーカイブ化と公開が掲げられている。この方針の下で、以下の教材・アーカイブを作成または整備し、公開した。

### 4.2.1 火山がつくった伊東の風景

静岡県伊東市は、日本の108活火山のひとつである伊豆東部火山群の分布範囲内にあり、1978年以来数ヶ月から数年毎に地下のマグマ活動にともなう群発地震が発生し、1989年7月には市街地の沖で海底噴火も起きている。こうした火山活動のリスクが高い場所でありながら、伊豆東部火山群のハザードマップはいまだに未作成の状態にある。しかし、長期的な視点に立てば伊豆東部火山群の噴火は他に代え難い豊かな恵みを地元を与えてきたことも事実である。こうした表裏一体の関係にある火山のリスクとベネフィットをバランスよくとらえ、ゆくゆくは地元の総意の下でハザードマップを整備し、火山と末長く共生する地域社会をつくっていくためには、まず火山についての正しい知識をわかりやすい形で普及していく必要がある。

こうした問題意識のもとで、本センター併任教員の小山真人教授は、表記の地図「火山がつくった伊東の風景」を作成した。この地図は、伊豆東部火山群の地質図をベースマップとし、そこに火山見学のための名所、火山以外の主要な史跡・名勝、道路、ハイキングコース、駐車場、観光施設、トイレなどの情報を盛り込んだものであり、裏の解説面には伊豆半島の地質学的歴史や伊豆東部火山群の噴火史・火山防災などに関する基礎知識の平易な図解を載せている。地図のサイズはA2判をやや縦長としたものであり、伊東市のほぼ全域と伊豆東部火山群（陸上部分）の北東部を収める。両面とも4色カラー印刷であり、背景図には10mメッシュの標高データをもとにした地形の陰影図を配した。これを14折りとし、噴火位置の時代変遷図をあしらったカラーの紙ケースに入れ、書店で入手可能としている（2009年3月伊豆新聞本社発行、静岡新聞社発売。ISBN978-4-7838-9746-0）。この地図に関する研究報告は以下である。

小山真人（2009）：火山がつくった伊東の風景—市民と観光客のための伊豆東部火山群2万5000分の1地質図。日本地球惑星科学連合2009年大会予稿集，A003-P010



#### 4.2.2 富士山大噴火が迫っている

富士山は、伊豆東部火山群とともに静岡県内にある活火山のひとつであり、歴史時代に少なくとも 10 回の噴火を起こし、現在も地下のマグマ活動が観測されている。2004 年には国と地元自治体の主導によって火山ハザードマップが作成され、山麓の市町村に全戸配布された上で、それにもとづく防災対策が地域防災計画の中に盛り込まれている。こうした火山防災対策の完備した先進地であるにもかかわらず、トップダウン的に進められた弊害によって、住民に対する火山防災知識の普及は立ち後れている。

こうした問題意識のもとで、本センター併任教員の小山真人教授は、表記の普及解説書「富士山大噴火が迫っている―最新科学が明かす噴火シナリオと災害規模」を執筆し、書店で入手可能としている（2009 年 1 月技術評論社発行、ISBN978-4-7741-3706-3）。

#### 4.2.3 活火山富士山がわかる本（Web 版）

富士山の火山防災に関する知識普及が立ち後れている現状については上記した通りであるが、火山に関する知識普及のためには、噴火がつくった地形や噴出物を直接観察する機会が基本的に重要である。

この目的のため、本センター併任教員の小山真人教授は、国土交通省富士砂防事務所との協力の下に、富士山の火山地形・地質の現地見学ガイドブックである「活火山富士山がわかる本」を 2007 年に監修・完成した。しかし、これは部数限定かつ非売品の冊子であったため、広く住民に活用される状況になっていなかった。そこで、この冊子の内容を改訂した Web 版を作成し、2009 年 3 月から本センターの Web ページ（<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/sbosai/fuji/wakaru/>）で公開している。



図 4-1 活火山富士山がわかる本 Web 版のトップページ

#### 4.2.4 セクターコラプス～富士山崩壊～

富士山の火山防災に関する知識普及が立ち後れている現状については上記した通りであるが、あらゆる年齢層に対する知識普及を考えた場合、通常の解説書だけではおのずと限界がある。こうした場合、ドラマ仕立ての映像作品の形式をとるものが有効である。また、こうした映像作品は、防災文化の発信の役割を果たすポテンシャルも秘めている。

この目的のため、本センター併任教員の小山真人教授は、集英社および作家の石黒耀氏、漫画家の光原伸氏と協力し、富士山の火山防災知識をベースとした漫画「セクターコラプス～富士山崩壊」（2008年11月集英社発行，ISBN978-4-420-22050-7）の科学監修をつとめた。

#### 4.2.5 世界の火山百科図鑑

富士山の火山防災に関する知識普及が立ち後れている現状については上記した通りであるが、こうした状況は富士山にとくに限ったものではなく、日本の火山一般に言えることである。こうした問題意識のもとで、本センター併任教員の小山真人教授と伊藤英之客員准教授は、日本火山の会と協力して世界の主要 100 火山のデータを集約・解説した普及書「世界の火山百科図鑑」（マウロ・ロッシ著，2008年6月終風社発行，ISBN978-4-903530-15-4）の翻訳・編集プロジェクトに参加した。

#### 4.2.6 古代中世地震・噴火史料データベース

日本には7世紀以来の信頼すべき地震・火山噴火記録が文字史料として残されているが、それらを統一的に校訂・吟味した研究が、本センター併任教員の小山真人教授が参加する古代中世地震史料研究会によって最近おこなわれている。本センターは、古代中世地震史料研究会と協力し、上記の校訂作業の成果としての古代中世地震・噴火史料データベースを本センターのWebページ上 (<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/erice/>) に2009年6月から公開している。このデータベースに関する研究報告は以下である。

石橋克彦・古代中世地震史料データベース化研究グループ (2008): 「地震・噴火史料データベース (古代・中世編)」のインターネット公開。日本地球惑星科学連合 2008 年大会 予稿集。



図 4-2 古代中世地震・噴火史料データベースのトップページ

#### 4.2.7 災害後の心のケアハンドブック

防災総合センターと静岡県臨床心理士会との協働により、「学校現場・養護教諭のための災害後のこころのケアハンドブック」を2010年2月に発行した。このハンドブックは、災害後のこころのケアの基本的な事柄について、小中学校の養護教諭をはじめとする先生方を対象として準備した。被災者の心理、子どもの心身の変化にどのように対応するとよいかをQ&A方式にし、ストレスマネジメントなどはイラストをたくさん入れ、ページを開きぱっと見てもわかりやすい内容で構成されている。イラスト・構成は、教育学部美術教育専攻の高橋智子講師と美術教育専攻の学生3名にご協力を頂いた。

このハンドブックは災害後に使えるようにと素材や大きさにもこだわり、保健室の救護バック等に入れやすいコンパクトなサイズで、かつ雨に濡れても大丈夫なように水に強い紙で作成した。このハンドブックは、各教育委員会を通して静岡県内のすべての養護教諭とスクールカウンセラーに配布され、静岡県内の市町の防災担当の方にも危機管理局を通じて配布された。またマスコミを通じた広報により、地域住民や企業からも入手の申込があった。静岡県内ではこれまでに、こうした災害後の心のケアに関するハンドブックはなかったことから、非常に好評を頂いている。

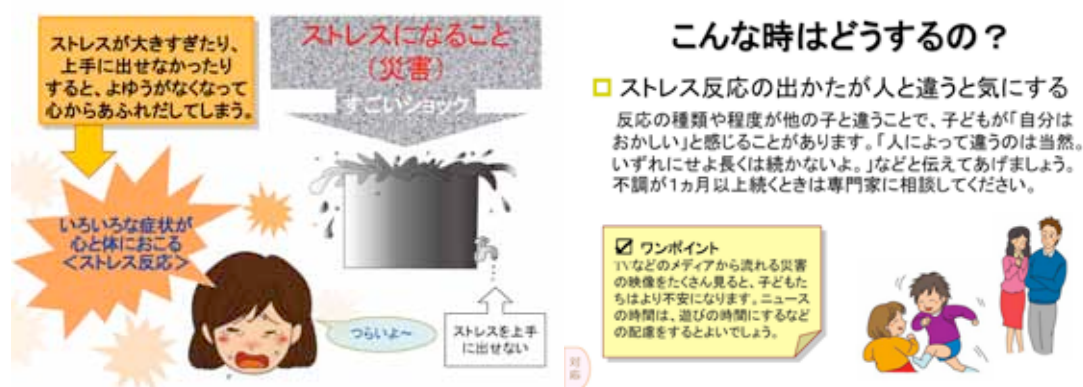


図 4-3 「災害後のこころのケアハンドブック」の一部

## 5 社会的活動

### 5.1 一般・実務者対象の講演会等

小山真人，噴火警報・噴火警戒レベルの課題-とくに富士火山防災の視点から-，日本火山学会 2008 年秋季大会シンポジウム「日本の新たな火山防災の仕組み-噴火警報・噴火警戒レベルと噴火時避難体制-」，盛岡，2008 年 10 月（招待講演）

小山真人，国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所富士山噴火対応訓練（評価と講評），2008 年 12 月 3 日

小山真人，国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所富士山噴火対応訓練（評価と講評），2010 年 1 月 26 日

小山真人，富士川町中央公民館特別公開講座「地震防災のまちづくり」，富士川町，2008 年 6 月 26 日

小山真人，清見潟大学塾 清見潟セミナー「東海地震の歴史と将来予測」，静岡市清水区，2008 年 7 月 5 日

小山真人，2008 年度静岡県防災士養成講座「火山災害一般と富士山火山防災」，静岡市，2008 年 9 月 25 日

小山真人，大室山の天然記念物指定を考える勉強会「火山がつくった伊東の風景」，伊東市池区，2008 年 10 月 30 日

小山真人，第 2 回科学と環境教育ミーティング in 富士山「もっと知りたい！富士山・火山」，富士宮市，2008 年 11 月 2 日

小山真人，富士山湧水インストラクター養成講座「火山としての富士山」，三島市，2008 年 11 月 4 日

小山真人，大学特別講座「地震のメカニズムと防災のまちづくり」東海地震の歴史から学ぶ，吉田町教育委員会主催・静岡大学生涯学習教育研究センター協力，2008 年 12 月 3 日

小山真人，しずおか防災地域連携第 8 回土曜セミナー「1707 年富士山宝永噴火-前兆・推移・大地震との関連性-」，静岡市，2008 年 12 月 20 日

小山真人，災害対策山静神連絡会議 富士山火山防災対策シンポジウム「富士山の噴火史と火山防災対策」，小田原市，2009 年 2 月 1 日

小山真人，岩手県気仙町・地域防災に関するシンポジウム「富士山と伊豆地域における火山との共生への取り組み」，岩手県立大学総合政策学部牛山研究室・岩手県大船渡地方振興局・静岡大学防災総合センター主催，岩手県陸前高田市，2009 年 2 月 27 日

小山真人，「火山がつくった伊東の風景」，伊東市健康保養地づくり実行委員会，伊東市，2009 年 3 月 25 日

小山真人，静岡流通センター講演会「歴史に学ぶ東海地震の実像と教訓」，静岡市，2009 年 4 月 21 日

小山真人, 震災対策技術展シンポジウム「東海地震研究の現状と発生の可能性」「歴史に学ぶ東海地震の特徴と教訓」, 静岡市, 2009年4月24日

小山真人, 静岡大学教育学部同窓会総会「火山がつくった伊豆の大地と風景」, 伊東市, 2009年6月14日

小山真人, 静岡県不動産鑑定士協会研修会「静岡県の地質—安全・安心な県土のために—防災専門家の立場からみた土地の危険の読み方—」, 静岡市, 2009年9月9日

小山真人, しずおか防災地域連携 臨時土曜セミナー「2009年8月11日駿河湾の地震の地球科学的全体像と背景」(林能成と共同発表), 静岡市, 2009年9月19日

小山真人, 2009年度静岡県防災士養成講座「火山災害一般と富士山火山防災」, 静岡市, 2009年9月29日

小山真人, 静岡県商工協同組合 駿河湾の地震と東海地震, 静岡市, 2009年11月6日

小山真人, 三島エコツアーインストラクター養成講座「火山がつくった伊豆の大地と風景」, 三島市, 2009年11月13日

小山真人, 伊東市史講座「火山がつくった伊豆の大地と風景」, 伊東市, 2009年11月14日

小山真人, 地震火山こどもフォーラム in 東京 インストラクターおよびパネリスト, 日本地震学会・日本火山学会主催, 東京都, 2009年11月28-29日

小山真人, 「火山がつくった伊豆の風景」, 西伊豆温泉協会, 西伊豆町, 2009年12月14日

小山真人, 伊豆半島ジオパーク講演会「伊豆半島の地質遺産～その世界的特異性と見どころ」, 伊東市, 2009年12月21日

小山真人, 「科学と環境教育ミーティング」静岡県の火山・地震・プレートテクトニクスに関する基礎知識, NPO 法人ホールアース研究所主催, 富士宮市, 2010年2月7日

小山真人, 防災・耐震セミナー 駿河湾の地震と東海地震, NPO 法人防災推進委員会主催, 富士宮市, 2010年2月14日

小山真人, 地球深部探査船「ちきゅう」寄港記念シンポジウム"地震・防災ちきゅうシンポジウム in 清水-「ちきゅう」と地震科学の最前線" 「歴史に学ぶ東海地震と富士山噴火」, 静岡県・静岡大学・東海大学海洋学部・海洋研究開発機構,, 静岡市, 2010年3月6日

小山真人, ふじさんネットワーク富士山勉強会「富士山の噴火史と火山防災対策の現状」, 富士市, 2010年3月20日

小山真人, 伊豆高原を考える会シンポジウム「伊豆高原の新しい魅力づくり」「火山がつくった伊豆高原-その地質学的価値と見どころ-」, 伊東市, 2010年3月27日

小山真人, 理科基礎「活火山富士山について」(静岡県教育委員会主催 高校と大学の連携事業), 静岡県立静岡中央高校, 2008年9月4日

小山真人, 「環境と防災」出前授業, 静岡県立裾野高校, 2008年12月8日

小山真人, 伊豆半島の生い立ちと本州への衝突(講義と野外見学), 静岡県立大仁高校(サイエンス・パートナーシップ・プログラム), 2009年6月20日



小山真人, 「環境と防災」出前授業, 静岡県立裾野高校, 2009年6月22日

小山真人, 伊豆半島の生き立ちと本州への衝突(野外見学第2回), 静岡県立大仁高校(サイエンス・パートナーシップ・プログラム), 2009年6月27日

小山真人, 理科基礎「地震学の基礎と2009.8.11駿河湾の地震」(静岡県教育委員会主催 高校と大学の連携事業), 静岡県立静岡中央高校, 2009年9月8日

小山真人, 地震学の基礎と2009.8.11の駿河湾の地震 出前授業, 静岡県立大仁高校, 2009年10月16日

小山真人, 富士山学習指導(4名), 富士宮市立富士宮第二中学校, 2009年10月29日

牛山素行, 第45回自然災害科学総合シンポジウム, 自然災害研究協議会, 京都市, 2008年12月11日

牛山素行, 平成20年度京都大学防災研究所一般共同利用研究集会「台風災害を防ぐー気象学・風工学・土木学・災害学の間には橋を架けるー」(通称:「台風研究会」), 京都大学防災研究所, 宇治市, 2008年12月17日

牛山素行・太田好乃, 防災研究フォーラム第7回シンポジウム, 防災研究フォーラム, 宇治市, 2009年3月7日

牛山素行, 第41回砂防学会シンポジウム「中山間地域における大規模地震と土砂災害」, 砂防学会, 一関市, 2009年11月4日

牛山素行, 第16回岩手県危険物安全推進大会, 岩手県危険物安全協会連合会主催, 岩手県盛岡市, 2008/6/11

牛山素行, 平成20年度防災啓発研修講演会, (財)消防科学総合センター, 東京都港区, 2008/7/4

牛山素行, 平成20年度シニアボランティア研修会, 岩手県社会福祉協議会主催, 岩手県盛岡市, 2008/7/17

牛山素行, 鹿児島県市町村長防災危機管理ラボ, (財)消防科学総合センター, 鹿児島県鹿児島市, 2008/8/8

牛山素行, 第3回奥州市社会福祉大会, 奥州市社会福祉協議会, 岩手県奥州市, 2008/10/16

牛山素行, 講座, 気象キャスターネットワーク, 東京都台東区, 2008/10/26

牛山素行, 今泉地区防災ワークショップ, 牛山研究室・岩手県大船渡地方振興局, 岩手県陸前高田市, 2008/10/31

牛山素行, 熊本県市町村長防災危機管理ラボ, (財)消防科学総合センター, 熊本県熊本市, 2008/11/6

牛山素行, 地域安心安全ステーション出前講座, 総務省消防庁・山形県, 山形県新庄市, 2008/11/24

牛山素行, 防災ワークショップ講習会, 岩手県総合防災室, 岩手県滝沢村, 2008/12/16

牛山素行, 平成20年度防災気象講演会, 富山県・富山地方気象台・消防科学総合センター, 富山市, 2009/1/21

牛山素行，地域福祉等推進特別支援事業災害時ネットワーク研修会，奥州市社会福祉協議会，岩手県奥州市，2009/1/22

牛山素行，盛岡市女性活動研修会，盛岡市教育委員会，盛岡市，2009/2/7

牛山素行，気仙町・地域防災に関するシンポジウム，岩手県立大学総合政策学部牛山研究室・大船渡地方振興局・静岡大学防災総合センター，岩手県陸前高田市，2009/2/27

牛山素行，震災対策技術展／自然災害対策技術展 静岡，第1回「震災対策技術展／自然災害対策技術展」静岡 実行委員会，静岡市，2009/4/25

牛山素行，河川情報センター講演会，河川情報センター，東京都，2009/6/11

牛山素行，土曜セミナー(臨時)，しずおか防災コンソーシアム，静岡市，2009/8/1

牛山素行，豪雨災害情報に関する勉強会，静岡地方気象台，静岡市，2009/8/5

牛山素行，JWA 関西防災セミナー，日本気象協会関西支社，大阪市，2009/8/7

牛山素行，8月11日 駿河湾を震源とする地震 緊急報告会，しずおか防災コンソーシアム，静岡市，2009/9/19

牛山素行，防災講話，静岡県立大仁高校，伊豆の国市，2009/9/1

牛山素行，防災気象講演会，静岡地方気象台・静岡県・静岡大学防災総合センター，静岡市，2009/10/27

牛山素行，第1回危機管理研究会，日本防火・危機管理促進協会，東京都，2009/12/7

牛山素行，地盤工学フォーラム東北2009，地盤工学会東北支部，仙台市，2010/1/15

牛山素行，エンジニアリング振興協会，エンジニアリング振興協会都市・地域部会，東京都，2010/1/20

牛山素行，しずおか防災コンソーシアム，マスコミ防災研究会，静岡市，2010/1/21

牛山素行，静岡県西部危機管理局，西部地域自主防災組織活性化連絡会，静岡県磐田市，2010/1/26

牛山素行，総務省東海総合通信局，防災情報通信セミナー，静岡市，2010/1/28

牛山素行，和歌山県防災技術講演会，和歌山県すさみ町，2010/2/13

牛山素行，防災ワークショップ講習会，岩手県総合防災室，盛岡市，2010/2/19

牛山素行，市町村アカデミー，市町村アカデミー専門実務研修過程「防災と危機管理」，千葉市，2010/2/22

林能成，名古屋大学の防災力向上に向けた取組みについて，NUA 学術情報システム研究会 講演会第30回研究会，大東文化会館，2008年6月12日。

林能成，過去の災害に学ぶ～1945年三河地震が残した教訓(1) 敵を知る 地震がこの地域に何をもちたのか！，ふれあい「えのき」10周年記念大会，榎前町公民館ホール，2008年6月22日。

林能成，地震，防災教育チャレンジプランワークショップ，安城市立志貴小学校，2008年7月11日。

林能成，地震と災害～防災ボランティアのための基礎知識～，一宮市社会福祉協議会防災

ボランティア養成講座, 2008年7月27日.

林能成, 祖父江で緊急地震速報をいかす, 祖父江町社会福祉協議会講演会, 祖父江町保健センター, 2008年9月5日.

林能成, 地震のメカニズムを知る～過去に東南海地震は起きていた～, 生涯学習講座「災害を考える～地震・水害・竜巻～」, 名古屋市千種生涯学習センター, 2008年10月23日.

林能成, 過去の地震災害に学ぶ～1945年三河地震を例に～, しずおか防災地域連携土曜セミナー(第6回), 静岡県地震防災センター, 2008年11月29日.

林能成, しずおか防災コンソーシアム・マスコミ防災研究会発足会議 地域防災力向上のためのメディア・行政・大学の連携～名古屋・東京・関西の先進事例に学ぶ～, 静岡県地震防災センター, 2009年7月10日

林能成, 静岡市立幼稚園教務主任研修会 地震災害に備える, 静岡市立東豊田幼稚園, 2009年8月6日

林能成, 想定される東海地震と減災の工夫, 静岡市高齢者学級みのり大学小鹿学級, 静岡市健康文化交流館来・て・こ, 2009年9月8日

林能成, 世界一受けたい防災講習, 静岡大学浜松キャンパス技術職員研修会, 佐鳴会館会議室, 2009年9月29日

林能成, 静岡大学防災訓練人文学部研修 2009年8月11日駿河湾の地震と東海地震, 静岡大学人文学部大講堂, 2009年11月6日

林能成, 静岡大学防災訓練人文学部(夜間主コース)研修 2009年8月11日駿河湾の地震と東海地震, 静岡大学共通教育L棟306教室, 2009年11月6日

林能成, 東海地震防災セミナー2009 インド洋大津波の災害実態, 静岡商工会議所会館5階ホール, 2009年11月11日

林能成, 牧之原市防災耐震セミナー 2009年8月11日・駿河湾の地震と東海地震, 相良総合センター「いーら」ホール, 2010年1月17日

林能成, 防災教育推進フォーラム(静岡県) 静岡大学における防災教育の取り組み, 静岡市清水文化センター, 2010年1月31日

林能成, 西三河地域消防協議会講演会 大地震に備えて, 岡崎ニューグランドホテル, 2010年2月2日

林能成, 熱海市地域活性化プロジェクト第1回防災ワークショップ 観光地の災害対策を考える, 起雲閣, 2010年2月9日

林能成, しずおか防災地域連携第24回土曜セミナー 2009年8月11日駿河湾の地震における揺れと被害の特徴～しずおか防災コンソーシアム・アンケート調査からわかったこと～, 静岡県地震防災センター, 2010年2月13日

林能成, 日本の災害リスクアセスメントとその対策(日本語ラオ語同時通訳), 内閣府主催アジア・太平洋各国の防災力強化支援ワークショップ ラオス・ヴィエンチャン・ラオブラザホテル, 2010年3月1日

林能成, 茅ヶ崎たいあつぷ90推進協議会研修会 平成21年8月に発生した駿河湾の地震における被害の特徴について, 茅ヶ崎市役所コミュニティーホール, 2010年3月11日

里村幹夫: 静岡市葵区上足洗地区講演会. 上足洗自治会, 上足洗児童館, 2008年7月13日

里村幹夫: しずおか防災地域連携第2回土曜セミナー. 静岡県地震防災センター, 2008年7月26日

里村幹夫: みのり大学青葉学級. 静岡市みのり大学, アイセル21, 2008年9月4日

里村幹夫: 研修会. 静岡大学人文学部. 沼津市民生委員児童委員, 2008年9月8日

里村幹夫・ほか: 第5回しずおか境界シンポジウムパネルディスカッション. 静岡県土地家屋調査士会, グランシップ 中ホール・大地, 2008年10月1日

里村幹夫: 大学特別講座「地震のメカニズムと防災のまちづくり」, 吉田町, 吉田町中央公民館, 2008年10月29日

里村幹夫・ほか: 地震防災フォーラムパネルディスカッション, 静岡県, グランシップ 中ホール・大地 2008年11月1日

里村幹夫: 裾野市防災のつどい. 裾野市, 裾野市民文化センター多目的ホール. 2008年11月5日

里村幹夫: 平成20年度第2回技術研修会, (社)静岡県測量設計業協会, 静岡県男女共同参画センターあざれあ, 2008年12月15日

里村幹夫: 平成21年度F90ゼロ災運動安全大会, (株)古川組静岡支店, 清水テルサ, 2009年7月4日

里村幹夫: シェルターハウスキャンペーン. (株)静岡レスコハウス, グランシップ, 2009年8月23日

里村幹夫: みのり大学城内学級, 静岡市みのり大学, アイセル21, 2009年9月10日

里村幹夫: 創立10周年・静岡支店開設2周年記念セミナー. 日本ERI, ペガサート21, 2009年11月9日

里村幹夫: サイエンスカフェ in 静岡. B-nest 静岡市産学交流センター. 静岡大学理学部, 2009年11月26日

里村幹夫: 防災・耐震セミナー, NPO法人防災推進委員会, 御殿場市ふじざくら, 2009年11月29日

村越真, 全国遭難対策協議会, 文部科学省他, 愛知県, 2009年7月2日

前田恭伸, 平成20年度技術者のための技術経営講座「技術者のための統計」, はままつ産業創造センター, 浜松地域情報センター(浜松), 2009年2月23日, 2009年3月2日

前田恭伸, 静岡大学大学院工学研究科事業開発マネジメント専攻平成21年度第一回フォーラム「災害リスクマネジメントの今」, 静岡大学大学院工学研究科事業開発マネジメント専攻, 静岡大学(浜松), 2009年8月1日

前田恭伸, 平成21年度第7回環境物質科学月例セミナー「リスクマネジメント支援のため

の情報検索技術」, 静岡県立大学生生活健康科学研究科, 静岡県立大学 (静岡), 2009 年 12 月 15 日

前田恭伸, 環境リスク公開セミナー 第 3 回「市民のためのリスクマネジメント」, 大阪大学工学研究科附属 SD オンサイト研究センター, 大阪大学中之島センター (大阪), 2010 年 2 月 3 日

前田恭伸, 平成 21 年度技術者のための技術経営講座「統計」, はままつ産業創造センター, 浜松地域情報センター (浜松), 2010 年 2 月 4 日, 2010 年 2 月 8 日, 2010 年 2 月 15 日

笠原英男, 大道芸ワールドカップ防災準備室主催広域催事危機管理訓練, 2008 年 05 月 18 日

笠原英男, 西湘災害ボランティアコーディネーター通常総会, 2008 年 06 月 22 日

笠原英男, 由比町ボランティア連絡会総会, 2008 年 06 月 23 日

笠原英男, 伊東市社会福祉協議会主催「社会福祉大会防災講演」, 2008 年 06 月 28 日

笠原英男, 沼津市社会福祉協議会主催「災害ボランティアコーディネーター養成講座」, 2008 年 06 月 29 日

笠原英男, 静岡市社会福祉協議会主催「初級災害ボランティア養成講座」, 2008 年 07 月 26 日

笠原英男, 静岡市社会福祉協議会主催「初級災害ボランティア養成講座」, 2008 年 08 月 02 日

笠原英男, 静岡市社会福祉協議会主催「初級災害ボランティア養成講座」, 2008 年 08 月 09 日

笠原英男, 中部大学主催「災害ボランティア本部開設訓練」, 2008 年 08 月 20 日

笠原英男, 静岡県自閉症協会親子キャンプ「防災シンポジウム」2008 年 08 月 30 日

笠原英男, 静岡大学・学生防災ネットワーク主催「防災・サバイバルキャンプ」朝霧施設, 2008 年 9 月 5~7 日

笠原英男, 「災害ボランティアコーディネーター由比」設立総会, 2008 年 10 月 11 日

笠原英男, 静岡市主催「災害ボランティアコーディネーター養成講座」, 2008 年 11 月 08 日

笠原英男, 静岡市主催「災害ボランティアコーディネーター養成講座」, 2008 年 11 月 22 日

笠原英男, 福島県郡山市「郡山開成学園」防災講座, 2008 年 12 月 13 日

笠原英男, 静岡地域防災セミナー, 2009 年 01 月 10 日

笠原英男, 伊豆の国市災害ボランティアコーディネーター養成講座, 2009 年 01 月 24 日

笠原英男, 伊豆の国市災害ボランティアコーディネーター養成講座, 2009 年 01 月 31 日

笠原英男, 伊豆の国市災害ボランティアコーディネーター養成講座, 2009 年 02 月 07 日

笠原英男, DMA T 支援隊静岡「ロジスティックス講習会」, 2009 年 03 月 01 日

笠原英男, 震災対策技術展 防災講話, 2009 年 04 月 25 日

笠原英男, 大道芸ワールドカップ防災準備室「広域催事の危機管理」, 2009年04月26日

笠原英男, 災害ボランティアコーディネーター伊豆の国通常総会基調講演, 2009年05月09日

笠原英男, 「災害ボランティアコーディネーター養成講座」, 沼津市・沼津市社会福祉協議会主催, 2009年06月14日

笠原英男, 「災害ボランティアコーディネーター養成講座」, 沼津市・沼津市社会福祉協議会主催, 2009年06月21日

笠原英男, 「災害ボランティアコーディネーター養成講座」, 沼津市・沼津市社会福祉協議会主催, 2009年06月28日

笠原英男, 「災害ボランティアコーディネーター養成講座」, 沼津市・沼津市社会福祉協議会主催, 2009年07月05日

笠原英男, 「災害ボランティア本部立ち上げ訓練」, 伊豆の国市社会福祉協議会主催・災害ボランティアコーディネーター伊豆の国共催, 2009年07月18日

笠原英男, 「災害ボランティア養成講座」, 静岡市・静岡市社会福祉協議会主催, 2009年07月19日

笠原英男, 「災害ボランティア養成講座」, 静岡市・静岡市社会福祉協議会主催, 2009年07月26日

笠原英男, 「静岡市災害ボランティア本部」立ち上げ訓練勉強会, 2009年07月30日

笠原英男, 「災害ボランティア養成講座」, 静岡市・静岡市社会福祉協議会主催, 2009年08月02日

笠原英男, 「避難所アンケート」結果に基づく 防災講話, 静岡城北高等学校, 2009年09月09日

笠原英男, 「災害ボランティア本部とは」, 磐田市社会福祉協議会主催, 2009年09月28日

笠原英男, 「静岡県防災士」講座, 静岡県主催, 2009年09月30日

笠原英男, 「当事者と家族と防災」, 静岡市手をつなぐ育成会主催, 2009年10月13日

笠原英男, 「災害ボランティアコーディネーター養成講座」, 静岡市・静岡市社会福祉協議会主催, 2009年11月07日

笠原英男, 「災害ボランティアコーディネーター養成講座」, 静岡市・静岡市社会福祉協議会主催, 2009年11月21日

笠原英男, 「災害ボランティアコーディネーター養成講座」, 伊豆の国市社会福祉協議会主催, 2009年11月28日

笠原英男, 「避難所アンケート」に基づく防災講話, 伊豆の国市古奈地区, 2009年12月06日

笠原英男, 「災害ボランティアコーディネーター養成講座」, 伊豆の国市社会福祉協議会主催, 2010年01月30日

笠原英男, 「災害ボランティアコーディネーター養成講座」, 伊豆の国市社会福祉協議会主

催, 2009年02月20日

## 5.2 マスメディア・新聞等への掲載

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (32) 陸上大型火山の時代1ー並び立つ火山(上), 2008年4月6日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (33) 陸上大型火山の時代2ー並び立つ火山(下), 2008年4月13日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (34) 陸上大型火山の時代3ー湯河原・多賀・宇佐美火山, 2008年4月20日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (35) 陸上大型火山の時代4ー天城・天子火山, 2008年4月27日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (36) 陸上大型火山の時代5ー達磨・井田・大瀬崎火山, 2008年5月4日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (37) 陸上大型火山の時代6ー棚場・猫越・長九郎火山, 2008年5月11日

小山真人, 静岡新聞, 時評: しずおか防災コンソーシアム 災害に備える知の組織, 2008年5月15日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (38) 陸上大型火山の時代7ー蛇石・南崎火山, 2008年5月18日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (39) 陸上大型火山の時代8ーガラスをつくった火山, 2008年5月25日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (40) 陸上大型火山の時代9ー伊豆の黒曜石, 2008年6月1日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (41) 伊豆東部火山群の時代1ー群れをなす小さな火山たち, 2008年6月8日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (42) 伊豆東部火山群の時代2ー遠笠山, 2008年6月15日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (43) 伊豆東部火山群の時代3ー巢雲山, 2008年6月22日

小山真人, 静岡新聞, 時評: 誤解を招く震源の×印表示 規模や被害, イメージする力を, 2008年6月26日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (44) 伊豆東部火山群の時代4ー火山灰の追跡, 2008年6月29日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (45) 伊豆東部火山群の時代5ー高塚山, 2008年7月6日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (46) 伊豆東部火山群の時代6ー火山公園になっ

た採石場，2008年7月13日

小山真人，東京新聞，活火山以外に噴煙 江戸の絵地図，2008年7月15日

小山真人，伊豆新聞，伊豆の大地の物語（47）伊豆東部火山群の時代7－長者原，2008年7月20日

小山真人，伊豆新聞，潮の響（編集委員コラム） 伊豆の大地の物語の高塚山火山記事についてのコメント，2008年7月25日

小山真人，伊豆新聞，伊豆の大地の物語（48）伊豆東部火山群の時代8－火山列の意味，2008年7月27日

小山真人，伊豆新聞，伊豆の大地の物語（49）伊豆東部火山群の時代9－日向，2008年8月3日

小山真人，伊豆新聞，伊豆の大地の物語（50）伊豆東部火山群の時代10－箱根から来た軽石と火山灰，2008年8月10日

小山真人，静岡新聞，時評：川の防災を考える 「対策依存症」から脱却を，2008年8月12日

小山真人，伊豆新聞，伊豆の大地の物語（51）伊豆東部火山群の時代11－丸野山，2008年8月17日

小山真人，伊豆新聞，伊豆の大地の物語（52）伊豆東部火山群の時代12－碧湖と東大池，2008年8月24日

小山真人，伊豆新聞，伊豆の大地の物語（53）伊豆東部火山群の時代13－梅木平，2008年8月31日

小山真人，伊豆新聞，伊豆の大地の物語（54）伊豆東部火山群の時代14－門野と萩，2008年9月7日

小山真人，伊豆新聞，伊豆の大地の物語（55）伊豆東部火山群の時代15－九州から来た火山灰（上），2008年9月14日

小山真人，伊豆新聞，伊豆の大地の物語（56）伊豆東部火山群の時代16－九州から来た火山灰（中），2008年9月21日

小山真人，伊豆新聞，伊豆の大地の物語（57）伊豆東部火山群の時代17－九州から来た火山灰（下），2008年9月28日

小山真人，伊豆新聞，伊豆の大地の物語（58）伊豆東部火山群の時代18－崖の高さが意味するもの，2008年10月5日

小山真人，静岡新聞，時評：緊急地震速報の幻想 効用と限界、正しく理解を，2008年10月7日

小山真人，伊豆新聞，伊豆の大地の物語（59）伊豆東部火山群の時代19－高室山，2008年10月12日

小山真人，伊豆新聞，伊豆の大地の物語（60）伊豆東部火山群の時代20－船原，2008年10月19日



小山真人, 静岡新聞夕刊, 地震の備え"イメトレ"ではダメ? 静岡大が実験 半数、緊急速報に反応できず, 2008年10月24日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(61) 伊豆東部火山群の時代 21-大池・小池, 2008年10月26日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(62) 伊豆東部火山群の時代 22-物見が丘のナヅ, 2008年11月2日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(63) 伊豆東部火山群の時代 23-城星, 2008年11月9日

小山真人, 静岡新聞, 時評: 縦割り組織の壁 柔軟な防災対応実現を, 2008年11月11日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(64) 伊豆東部火山群の時代 24-箱根火山最大の噴火, 2008年11月16日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(65) 伊豆東部火山群の時代 25-沼ノ川火山列, 2008年11月23日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(66) 伊豆東部火山群の時代 26-鉢ノ山, 2008年11月30日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(67) 伊豆東部火山群の時代 27-国土越火山列, 2008年12月7日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(68) 伊豆東部火山群の時代 28-地久保, 2008年12月14日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(69) 伊豆東部火山群の時代 29-九州からの使者 ふたたび, 2008年12月21日

小山真人, 静岡新聞, 時評: 漫画で学ぶ火山防災 巨大噴火災害を仮想体験, 2008年12月24日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(70) 伊豆東部火山群の時代 30-河津七滝をつくった火山, 2008年12月28日

小山真人, TMDC MATE (東京医師歯科医師協同組合発行), 富士山のなりたち, No.253, 18-19, 2009年1月1日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(71) 伊豆東部火山群の時代 31-地蔵堂火山と万城の滝, 2009年1月4日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(72) 伊豆東部火山群の時代 32-鉢ヶ窪と馬場平, 2009年1月11日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(73) 伊豆東部火山群の時代 33-稲取火山列, 2009年1月18日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(74) 伊豆東部火山群の時代 34-浄蓮の滝と鉢窪山, 2009年1月25日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(75) 伊豆東部火山群の時代 35-小室山, 2009

年 2 月 1 日  
小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (76) 伊豆東部火山群の時代 36—赤窪, 2009 年 2 月 8 日  
小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (77) 伊豆東部火山群の時代 37—富士山噴火と伊豆 (上), 2009 年 2 月 15 日  
小山真人, 静岡新聞, 時評: 緊急地震速報より大切なこと 揺れを感じたら即退避, 2009 年 2 月 18 日  
小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (78) 伊豆東部火山群の時代 38—富士山噴火と伊豆 (下), 2009 年 2 月 22 日  
小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (79) 伊豆東部火山群の時代 39—滑沢とエサシノ峰, 2009 年 3 月 1 日  
小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (80) 伊豆東部火山群の時代 40—川奈南・台ノ山・アラ山・赤坂南, 2009 年 3 月 8 日  
小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (81) 伊豆東部火山群の時代 41—菅引と堰口川上流, 2009 年 3 月 15 日  
小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (82) 伊豆東部火山群の時代 42—大室山 (1), 2009 年 3 月 22 日  
小山真人, 伊豆新聞, 「火山の産物、大事に」小山・静大教授が講演 伊東の生い立ち、150 人聴く, 2009 年 3 月 27 日  
小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (83) 伊豆東部火山群の時代 43—大室山 (2), 2009 年 3 月 29 日  
小山真人, 静岡新聞, 火山が生んだ伊東知って 静岡大の小山教授 地質図を作成 観光、防災にも活用, 2009 年 4 月 1 日  
小山真人, 静岡新聞, 時評: 火山観光地図 母なる恵み、息づかい発見, 2009 年 4 月 2 日  
小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (84) 伊豆東部火山群の時代 44—大室山 (3), 2009 年 4 月 5 日  
小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (85) 伊豆東部火山群の時代 45—大室山 (4), 2009 年 4 月 12 日  
小山真人, 伊豆新聞, 潮の響 (編集委員コラム) 「火山がつくった伊東の風景」についてのコメント, 2009 年 4 月 16 日  
小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (86) 伊豆東部火山群の時代 46—大室山 (5), 2009 年 4 月 19 日  
小山真人, 静岡新聞, 2009 年東海地震は今 = 発生メカニズムや観測データを解説 技術展で専門家講演-静岡, 2009 年 4 月 25 日  
小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (87) 伊豆東部火山群の時代 47—大室山 (6), 2009 年 4 月 26 日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (88) 伊豆東部火山群の時代 48ーカワゴ平 (1),  
2009年5月3日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (89) 伊豆東部火山群の時代 49ーカワゴ平 (2),  
2009年5月10日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (90) 伊豆東部火山群の時代 50ーカワゴ平 (3),  
2009年5月17日

小山真人, 静岡新聞, 時評: 静岡大学防災総合センター 地域の「ホームドクター」に,  
2009年5月19日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (91) 伊豆東部火山群の時代 51ーカワゴ平 (4),  
2009年5月24日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (92) 伊豆東部火山群の時代 52ーカワゴ平 (5),  
2009年5月31日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (93) 伊豆東部火山群の時代 53ー岩ノ山, 2009  
年6月7日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (94) 伊豆東部火山群の時代 54ー矢筈山と孔ノ山,  
2009年6月14日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (95) 伊豆東部火山群の時代 55ー岩ノ山-伊雄山火  
山列, 2009年6月21日

小山真人, 静岡新聞, 時評: 伊東沖海底噴火 20年 火山観光と防災を融合, 2009年6月  
25日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (96) 伊豆東部火山群の時代 56ー噴火史のまとめ  
(上), 2009年6月28日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (97) 伊豆東部火山群の時代 57ー噴火史のまとめ  
(中), 2009年7月5日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (98) 伊豆東部火山群の時代 58ー噴火史のまとめ  
(下), 2009年7月12日

小山真人, 静岡新聞, 社説 (伊東沖海底噴火あす20年 記憶と教訓の風化防げ), 2009  
年7月12日

小山真人, 静岡新聞, 小山真人静岡大教授 過度な危険視せず冷静に, 2009年7月12日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (99) 生きている伊豆の大地1ー伊豆の地学的現  
状, 2009年7月19日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (100) 生きている伊豆の大地2ー東海・南海地震  
と関東地震, 2009年7月26日

小山真人, サイエンスウィンドウ 2009年夏(8-9月)号, 地域を知るためのハザードマッ  
プ, 2009年8月1日

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (101) 生きている伊豆の大地3ー神奈川県西部地

- 震, 2009年8月2日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (102) 生きている伊豆の大地4ー丹那断層 (1), 2009年8月9日
- 小山真人, 静岡新聞, 家具固定、耐震化…「基本的な対策を」小山真人・静岡大教授, 2009年8月12日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (103) 生きている伊豆の大地5ー丹那断層 (2), 2009年8月16日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (104) 生きている伊豆の大地6ー丹那断層 (3), 2009年8月23日
- 小山真人, 日本経済新聞, Plus1「富士山はまた噴火するの?」, 2009年8月29日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (105) 生きている伊豆の大地7ー丹那断層 (4), 2009年8月30日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (106) 生きている伊豆の大地8ー丹那断層 (5), 2009年9月6日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (107) 生きている伊豆の大地9ー石廊崎断層, 2009年9月13日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (108) 生きている伊豆の大地10ー活断層の国, 2009年9月20日
- 小山真人, 静岡新聞, 駿河湾地震の被害解説 しずおか防災コンソーシアム, 2009年9月20日
- 小山真人, 産経新聞, 駿河湾地震 弱かった「キラールパルス」関係者ら 被害軽微も「過信禁物」, 2009年9月23日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (109) 生きている伊豆の大地11ー構造回転の謎 (上), 2009年9月27日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (110) 生きている伊豆の大地12ー構造回転の謎 (中), 2009年10月4日
- 小山真人, 読売新聞, 富士・宝永噴火 噴煙高さ20キロ 古文書から再現, 2009年10月11日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (111) 生きている伊豆の大地13ー構造回転の謎 (下), 2009年10月11日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (112) 生きている伊豆の大地14ー真鶴マイクロプレート, 2009年10月18日
- 小山真人, 静岡新聞夕刊, 2〜3秒早くても有効 静岡で日本災害情報学会 緊急地震速報 検証も, 2009年10月24日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (113) 生きている伊豆の大地15ー海岸地形は語る, 2009年10月25日

小山真人, 静岡新聞, 時評: 駿河湾の地震と東海地震 ゆれも被害もケタ違い, 2009年10月29日  
 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(114) 生きている伊豆の大地16-西に傾く半島, 2009年11月1日  
 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(115) 生きている伊豆の大地17-火山神の系譜, 2009年11月8日  
 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(116) 生きている伊豆の大地18-噴火の幻, 2009年11月15日  
 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(117) 生きている伊豆の大地19-火山と地震の連動, 2009年11月22日  
 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(118) 生きている伊豆の大地20-歴史の中のマグマ活動(1), 2009年11月29日  
 小山真人, 静岡新聞, 伊東・ジオパーク構想「来年から本格始動」-市長答弁, 2009年12月5日  
 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(119) 生きている伊豆の大地21-歴史の中のマグマ活動(2), 2009年12月6日  
 小山真人, 防災情報新聞, 「足元の地球を知ろう」地震火山こどもフォーラム in 東京, 2009年12月7日  
 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(120) 生きている伊豆の大地22-歴史の中のマグマ活動(3), 2009年12月13日  
 小山真人, 静岡新聞, 伊豆半島の生い立ち説明 西伊豆で講習会, 2009年12月15日  
 小山真人, 静岡新聞, 伊東 震度4~1頻発 小山真人・静岡大教授「過度の恐れ不要」, 2009年12月19日  
 小山真人, 朝日新聞静岡版, 震度5クラス注意 専門家, 2009年12月19日  
 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(121) 生きている伊豆の大地23-歴史の中のマグマ活動(4), 2009年12月20日  
 小山真人, 伊豆新聞, 潮の響(編集委員コラム) 伊豆の大地の物語の「歴史の中のマグマ活動」記事についてのコメント, 2009年12月22日  
 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(122) 生きている伊豆の大地24-歴史の中のマグマ活動(5), 2009年12月27日  
 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(123) 生きている伊豆の大地25-伊東沖海底噴火(1), 2010年1月3日  
 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語(124) 生きている伊豆の大地26-伊東沖海底噴火(2), 2010年1月10日  
 小山真人, 静岡新聞, 大仁高 静岡大とフィールドワーク 伊豆の地層に"知的探求心" 柱状節理見学、温泉分析も, 2010年1月14日

- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (125) 生きている伊豆の大地 27—伊東沖海底噴火 (3), 2010年1月17日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (126) 生きている伊豆の大地 28—伊東沖海底噴火 (4), 2010年1月24日
- 小山真人, 静岡新聞, 風は東から (10) 伊豆観光をジオパークで振興 地域一丸での取り組み重要, 2010年1月24日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (127) 大地と共に生きる 1—群発地震を予測する (上), 2010年1月31日
- 小山真人, 朝日新聞夕刊, その重さだと…富士山は水に浮いちゃいます 国交省サイト 誤り修正, 2010年2月1日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (128) 大地と共に生きる 2—群発地震を予測する (下), 2010年2月7日
- 小山真人, 静岡新聞, 伊豆を「ジオパーク」に 地質遺産の魅力発信 地域一体で認定目指せ, 2010年2月12日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (129) 大地と共に生きる 3—ハザードマップと避難計画 (上), 2010年2月14日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (130) 大地と共に生きる 4—ハザードマップと避難計画 (下), 2010年2月21日
- 小山真人, ふじあざみ (国土交通省中部地方整備局富士砂防工事事務所ニュースレター) 第72号 富士山噴火を想定した危機管理訓練を実施, 2010年2月26日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (131) 大地と共に生きる 5—火山を学ぶ, 2010年2月28日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (132) 大地と共に生きる 6—火山の恵み (上), 2010年3月7日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (133) 大地と共に生きる 7—火山の恵み (中), 2010年3月14日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (134) 大地と共に生きる 8—火山の恵み (下), 2010年3月21日
- 小山真人, 静岡新聞, 時評: 2010年チリ津波 防災対応の徹底検証を, 2010年3月23日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆の大地の物語 (135) 大地と共に生きる 9—伊豆ジオパークの夢, 2010年3月28日
- 小山真人, 静岡新聞, 伊豆高原に新たな魅力を 伊東でシンポ 小山静岡大教授が講演, 2010年3月28日
- 小山真人, 静岡新聞, 静岡新聞 風は東から (12) 健康長寿で地域の一体感醸成 世界の伊豆目指しジオパーク推進, 2010年3月28日
- 小山真人, 伊豆新聞, 伊豆高原に新しい魅力を 成り立ち、課題聞く 小山教授 地質学

的価値語る，2010年3月28日

小山真人，NHKテレビ（たっぷり静岡），視聴者懇談会開催，2008年7月30日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，テレビタ刊 緊急地震速報関連，2008年8月29日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，防災特番 徹底検証！静岡を襲うM8の現実，2008年8月30日

小山真人，FM-hi（シティエフエム静岡），ひるラジ！静岡情報館 静岡大学防災総合センターの紹介，2008年9月3日

小山真人，NHKテレビ（たっぷり静岡），津波避難ビル，2008年12月2日

小山真人，SBS（静岡放送）ラジオ，イブニング・ウェーブ 漫画で学ぶ火山防災，2008年12月31日

小山真人，FM-hi（シティエフエム静岡），ひるラジ！人にぞっこん 緊急地震速報の検証実験について，2009年1月16日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，テレビタ刊 防災最前線 浅間山噴火と噴火警戒レベル，富士山と伊豆東部火山群の防災，2009年2月4日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，イブニング eye 防災最前線 県や大学などが地域防災で連携，2009年4月29日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，イブニング eye 防災最前線 どう生かす？緊急地震速報，2009年6月3日

小山真人，静岡第一テレビ，リアルタイムしずおか 伊東沖海底噴火20年，2009年7月13日

小山真人，SBS（静岡放送）ラジオ，駿河湾の地震，2009年8月11日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，地震特番（午前）（駿河湾の地震），2009年8月11日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，地震特番（午後）（駿河湾の地震），2009年8月12日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，イブニング eye 駿河湾の地震，2009年8月12日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，イブニング eye 防災最前線 東海地震との違いは？，2009年8月12日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，イブニング eye 東海地震との違い，2009年8月19日

小山真人，SBS（静岡放送）テレビ，イブニング eye 緊急地震速報を役立てるには，2009年8月26日

小山真人，NHKラジオ第一，防災の日スペシャル-防災を身近にするために-，2009年9月1日

小山真人, FM-hi (シティエフエム静岡), ひるラジ! 人にぞっこん 東海地震と 8 月 11 日の駿河湾の地震などについて, 2009 年 9 月 4 日  
 小山真人, NHKテレビ (たっぷり静岡), 視聴者懇談会開催, 2009 年 9 月 29 日  
 小山真人, SBS (静岡放送) テレビ, イブニング eye 伊豆東方沖群発地震, 2009 年 12 月 18 日  
 小山真人, NHKテレビ (たっぷり静岡), 伊豆東方沖群発地震, 2009 年 12 月 18 日  
 小山真人, NHKテレビ (ニュースウォッチ9), 伊豆東方沖群発地震, 2009 年 12 月 18 日  
 小山真人, NHKテレビ (たっぷり静岡), 伊豆東方沖群発地震, 2009 年 12 月 22 日  
 牛山素行, 京都新聞, 取材ノートから 社会報道部・松尾浩道 利用頻度低い水位・雨量情報, 2008 年 4 月 29 日  
 牛山素行, 産経新聞, 岩手・宮城内陸地震 住宅被害少ない理由は 弱かったキラーパルス, 2008 年 6 月 16 日  
 牛山素行, 読売新聞, [震度6強] (中) 検証・初動対応 減災へ、尽きない課題 (連載) =岩手, 2008 年 6 月 17 日  
 牛山素行, 岩手日報, 土砂災害現場を視察 砂防学会緊急調査団 岩手・宮城内陸地震, 2008 年 6 月 23 日  
 牛山素行, 岩手日報, ★備えは万全か 岩手・宮城内陸地震★ (1) 情報伝達 通信手段確保で明暗, 2008 年 7 月 3 日  
 牛山素行, 岩手日報, ★震度6強再び 岩手北部地震★ (上) 恐怖 「すぐ戸外に逃げた」 慌てる要素 排除が肝心, 2008 年 7 月 28 日  
 牛山素行, 産経新聞, 【Re:社会部】地震に「実のある備え」を, 2008 年 7 月 30 日  
 牛山素行, 岩手日報, 震災に備え家具固定作業奉仕へ 藤沢町大工組合, 2008 年 8 月 4 日  
 牛山素行, 朝日新聞(愛知面), 集中豪雨、愛知で急増 時間50ミリ以上、この10年に49地点, 2008 年 9 月 1 日  
 牛山素行, 中日新聞, <寸断された情報・下> 頼れぬ行政 地域に対応を丸投げ, 2008 年 9 月 11 日  
 牛山素行, 岩手日報, 自然災害への備えを再確認, 2008 年 11 月 2 日  
 牛山素行, 朝日新聞(岩手面), 備えよ 宮城県沖地震, 2008 年 11 月 17 日  
 牛山素行, 岩手日報, 「地域で津波防災啓発を 住民調査の結果発表 陸前高田でシンポジウム, 2009 年 3 月 1 日  
 牛山素行, 静岡新聞, 山口豪雨災害「油断しがちな状況か」 -静岡大・牛山准教授が現地調査, 2009 年 7 月 24 日  
 牛山素行, 静岡新聞, NEWS交差点=ゲリラ豪雨-問われる地域防災力 行動計画策定 急ぐ県, 2009 年 7 月 29 日  
 牛山素行, 朝日新聞(全国社会面), ハザードマップ、住民説明に課題 静岡大などが全国自



治体を調査，2009年8月4日

牛山素行，岩手日報，避難勧告 判断に差 県立大、静岡大の全国自治体対象豪雨災害調査 「慎重に出すべき」32.4%，2009年8月4日

牛山素行，静岡新聞，「利用者も努力必要」、災害情報を生かそうー静岡でセミナー、山口 豪雨視察の牛山准教授が報告，2009年8月5日

牛山素行，静岡新聞，土砂災害で全国市町村調査 避難指示など積極派67%ー静岡大，2009年8月5日

牛山素行，静岡新聞，時評＝防災の専門家ー各分野の知識生かし対策，2009年8月5日

牛山素行，毎日新聞(静岡朝刊)，ハザードマップ：全国の市区町村、作製率3割増7割 住民周知が課題 /静岡，2009年8月6日

牛山素行，毎日新聞(東京夕刊)，豪雨：死者の1割、避難途中 「2階の方がいい場合も」ー04～08年、静岡大調査，2009年8月7日

牛山素行，読売新聞(大阪朝刊)，豪雨の兵庫・佐用、濁流一気に住民のむ 2家族が手つなぎ？無事で…安否気遣う，2009年8月10日

牛山素行，朝日新聞(全国朝刊)，(時時刻刻) 避難路、勧告時に冠水 住民、暗闇を移動 集中豪雨被害の兵庫・佐用，2009年8月11日

牛山素行，毎日新聞(大阪朝刊)，台風9号：西日本豪雨 避難途中で犠牲 不明18人、死者13人に，2009年8月11日

牛山素行，共同通信，土砂警戒情報また生きず 豪雨被害の岡山・美作市，2009年8月15日

牛山素行，朝日新聞(大阪朝刊)，冠水80センチ、避難中犠牲に 兵庫・佐用の豪雨から1週間 【大阪】，2009年8月16日

牛山素行，読売新聞(東京朝刊)，静岡沖地震 半壊2棟、全壊なし 短周期「プレート内型」要因？，2009年8月16日

牛山素行，朝日新聞，大手3社の携帯に地震速報、標準化 精度・認知度に難，2009年9月1日

牛山素行，神戸新聞，地域の実情に応じた対策を，2009年9月1日

牛山素行，東京新聞，電子地図使って避難支援，2009年9月2日

牛山素行，毎日新聞，備える：水害対策／8 避難行動中の被災例多く，2009年9月2日

牛山素行，共同通信，水位は0.8～1.7メートル 避難住民流された場所，2009年9月8日

牛山素行，朝日新聞(全国夕刊)，「家具固定」半数満たず 「防災先進県」静岡でも，2009年9月14日

牛山素行，朝日新聞(名古屋朝刊)，(伊勢湾台風50年 半世紀の教訓：下) いつどこへ、避難手探り 【名古屋】，2009年9月23日

牛山素行，産経新聞，東海地震「過信は禁物」，2009年9月23日

牛山素行, 朝日新聞(全国朝刊・オピニオン面), (私の視点) 自治体と水害 専任の防災担当を育てよう, 2009年9月24日

牛山素行, 静岡新聞, 牛山氏に「広井賞」 情報生かした減災研究評価, 2009年10月27日

牛山素行, 静岡新聞, 津波「50センチでも命取り」 防災気象講演会 自然の危険訴え, 2009年10月28日

牛山素行, 静岡新聞, 地域防災の今～駿河湾地震の教訓から(上)＝津波避難、どう判断－訓練重ね答え探る, 2009年12月2日

牛山素行, 静岡新聞, 時評＝個人レベルの防災－「何が重要か」考え、備える, 2009年12月10日

牛山素行, 朝日新聞(徳島全県), 避難勧告に多数応じず 津波への課題は… チリ大地震／徳島県, 2010年3月2日

牛山素行, 朝日新聞(全国1面), 津波の避難率、3.8%どまり 国内の指示・勧告域の住民 チリ地震、消防庁まとめ, 2010年3月9日

牛山素行, 毎日新聞(全国), <チリ大地震>津波で避難3.8% 指示・勧告出た市町村で, 2010年3月9日

牛山素行, 読売新聞(大阪朝刊), 行楽の春土砂災害ご注意 危険個所5.2万 防災マップ配布有効, 2010年3月15日

牛山素行, 毎日新聞(全国朝刊), チリ大地震: 岩手・宮城沿岸、大津波警報で4.5%避難－静岡大ネット調査, 2010年3月17日

牛山素行, 静岡新聞, チリ大地震「津波」、6割超が避難せず－牛山静岡大准教授が本県など調査, 2010年3月17日

牛山素行, テレビ岩手「プラス1いわて」, (岩手・宮城内陸地震による土砂ダムに関するコメント), 2008年6月18日

牛山素行, テレビ岩手「プラス1いわて」, (岩手・宮城内陸地震による人的被害に関するコメント), 2008年6月19日

牛山素行, NHK テレビ(全国ニュース), 岩手県北部地震 地元の災害専門家 洋野町の被害状況を調査, 2008年7月24日

牛山素行, NHK ラジオ第一放送「NHK ジャーナル」, 神戸市東灘区都賀川災害を契機とした親水公園に関するコメント, 2008年7月29日

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, 大雨から身を守るには, 2009年7月1日

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, 豪雨災害情報に関するコメント, 2009年7月3日

牛山素行, 静岡第一テレビ「静岡〇ごとワイド!News リアルタイムしずおか」, 豪雨災害情報に関するコメント, 2009年7月16日

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, 山口での豪雨災害を現地踏査してのコメント, 2009 年 7 月 29 日

牛山素行, NHK「たっぷり静岡」, 山口での豪雨災害を現地踏査してのコメント, 2009 年 8 月 4 日

牛山素行, 朝日放送「おはよう朝日・土曜日です」, 兵庫豪雨に関するコメント, 2009 年 8 月 22 日

牛山素行, テレビ朝日「報道ステーション」, 台風災害への備えに関するコメント, 2009 年 10 月 6 日

牛山素行, NHK「ニュースウォッチ 9」, 陸前高田市今泉地区における自主防災の取り組みと今回のチリ地震津波について, 2010 年 3 月 2 日

牛山素行, SBS 静岡放送「SBS イブニング eye」, チリ地震津波に伴う避難行動についてのコメント, 2010 年 3 月 8 日

牛山素行, NHK「たっぷり静岡」, チリ地震津波に伴う避難行動についてのコメント, 2010 年 3 月 9 日

林能成, 「東海地方 3 月の地震」(自己執筆), 読売新聞中部版 28 面, 2008 年 4 月 11 日.

林能成, 「東海地方 4 月の地震」(自己執筆), 読売新聞中部版 28 面, 2008 年 5 月 9 日.

林能成, 「東海地方 5 月の地震」(自己執筆), 読売新聞中部版 28 面, 2008 年 6 月 13 日.

林能成, 「東海地方 6 月の地震」(自己執筆), 読売新聞中部版 26 面, 2008 年 7 月 11 日.

林能成, 「東海地方 7 月の地震」(自己執筆), 読売新聞中部版 28 面, 2008 年 8 月 8 日.

林能成, 「東海地方 8 月の地震」(自己執筆), 読売新聞中部版 28 面, 2008 年 9 月 12 日.

林能成, 「東海地方 9 月の地震」(自己執筆), 読売新聞中部版 28 面, 2008 年 10 月 10 日.

林能成, 「東海地方 10 月の地震」(自己執筆), 読売新聞中部版 28 面, 2008 年 11 月 14 日.

林能成, 「東海地方 11 月の地震」(自己執筆), 読売新聞中部版 28 面, 2008 年 12 月 12 日.

林能成, 「東海地方 12 月の地震」(自己執筆), 読売新聞中部版 28 面, 2009 年 1 月 9 日.

林能成, 「東海地方 1 月の地震」(自己執筆), 読売新聞中部版 28 面, 2009 年 2 月 13 日.

林能成, 「静大防災センター 家選びにも対策を」, 中日新聞第 2 社会面, 2009 年 3 月 6 日.

林能成, 「地震に強い下宿探し」, 静岡新聞, 2009 年 3 月 7 日.

林能成, 「東海地方 2 月の地震」(自己執筆), 読売新聞中部版 28 面, 2009 年 3 月 13 日.

林能成, 「命守る家 新入生へ耐震性考えて選ぼう」, 中日新聞 8 面, 2009 年 3 月 16 日.

林能成,

林能成, 「生きるための安全生活マニュアル 生きるか死ぬかは災害が来る前に決まっている!？」, 日本テレビ・世界一受けたい授業, 2009 年 2 月 14 日.

林能成, 東海テレビ開局 50 周年記念番組「巨大地震前夜」, 東海テレビ, 2009 年 3 月 14 日.

林能成, 読売新聞, 「東海地方 3 月の地震」(自己執筆), 2009 年 4 月 9 日

林能成, 読売新聞, 「東海地方 4 月の地震」(自己執筆), 2009 年 5 月 14 日

林能成, 読売新聞, 「東海地方 5 月の地震」(自己執筆), 2009 年 6 月 11 日  
林能成, 読売新聞, 「東海地方 6 月の地震」(自己執筆), 2009 年 7 月 10 日  
林能成, 静岡新聞, 「地域防災へ連携強化 県内機関がマスコミと研究会ー静岡」, 30 面,  
2009 年 7 月 11 日.  
林能成, 中日新聞, 「《スマトラ沖地震 生の声を刻む》津波の記憶」, 31 面, 2009 年 7 月 16  
日.  
林能成, 読売新聞, 「東海地方 7 月の地震」(自己執筆), 2009 年 8 月 14 日  
林能成, 読売新聞, 「東海地方 8 月の地震」(自己執筆), 2009 年 9 月 11 日  
林能成, 静岡新聞, 「時評・業務継続マニュアル必要」, 18 面, 2009 年 9 月 16 日  
林能成, 読売新聞, 「東海地方 9 月の地震」(自己執筆), 2009 年 10 月 9 日  
林能成, 日本経済新聞 (夕刊), 「震度 6 弱は局地的」, 18 面, 2009 年 10 月 20 日  
林能成, 静岡新聞, 「牧之原震度 6 弱は局所的」, 28 面, 2009 年 10 月 21 日  
林能成, 中日新聞, 「震度 6 弱は局所的」, 31 面, 2009 年 10 月 21 日  
林能成, 読売新聞, 「東海地方 10 月の地震」(自己執筆), 2009 年 11 月 13 日  
林能成, 読売新聞, 「東海地方 11 月の地震」(自己執筆), 2009 年 12 月 11 日  
林能成, 読売新聞, 「東海地方 12 月の地震」(自己執筆), 2010 年 1 月 8 日  
林能成, 静岡新聞, 「時評・科学的知見から課題探れ」, 13 面, 2010 年 1 月 28 日  
林能成, 静岡新聞東部版, 「観光地を災害に強くー熱海で講習 生活守る準備必要」, 2010  
年 2 月 10 日  
林能成, 読売新聞, 「東海地方 1 月の地震」(自己執筆), 2010 年 2 月 12 日  
林能成, 静岡新聞, 「震動、地盤により地震の被害異なる」, 2010 年 2 月 15 日  
林能成, 読売新聞, 「東海地方 2 月の地震」(自己執筆), 2010 年 3 月 12 日  
林能成, NHK 静岡放送局・たっぷり静岡, 「被災体験の絵で地震学ぶ」, 2009 年 4 月 14  
日  
林能成, SBS イブニング eye, 「東名高速の耐震性」, 2009 年 8 月 17 日  
林能成, SBS イブニング eye, 「家屋被害の実態」, 2009 年 8 月 19 日  
林能成, SBS イブニング eye, 「牧之原市の調査について」, 2009 年 10 月 7 日  
林能成, SBS 静岡放送, 「防災特番・大地が揺れる!M8 の恐怖～東海地震、その時あなたは  
～」, 2009 年 10 月 18 日  
里村幹夫, 静岡新聞, 「本音インタビュー 里村幹夫氏 「脅しの防災」から転換 変革期  
の防災教育」,, 2008 年 3 月 22 日  
里村幹夫, 静岡新聞, 「速報後の行動徹底検証を」, 2008 年 9 月 22 日  
里村幹夫, 中日新聞, 「教育深め防災力アップ 静大「総合センター」で講座 学部の枠越  
え知識提供 県、気象台など連携の動きも」, 2008 年 6 月 15 日  
里村幹夫, 静岡新聞, 「緊急地震速報を活用 静岡大里村教授 連動発生の可能性示す」,  
2008 年 7 月 27 日

里村幹夫, 中日新聞, 「教育深め防災力アップ 静大, 「総合センター」, で講座 学部の枠  
越え知識提供 県、気象台など連携の動きも」, 2008年9月22日

里村幹夫, 静岡新聞, 「災害対策技術、全国からずらりー来年4月、静岡で見本市」, 2008  
年10月30日

里村幹夫, 静岡新聞, 「地震防災 産学官の連携議論ー県が静岡でフォーラム 被災企業担  
当者も」, 2008年11月2日

里村幹夫, 静岡新聞, 「トークバトル「静岡の地域防災は今」県フォーラム詳報 パネル討  
論「災害に強い地域社会を創る」, 2008年11月23日

里村幹夫, NHK 静岡放送局 たっぷり静岡, 「しずおか防災コンソーシアム」, 2009年3  
月31日

里村幹夫, 読売新聞, 「静岡大60年3 地震防災 増える役割」, 2009年4月9日

里村幹夫, 静岡だいいちテレビ, 「駿河湾の地震」, 2009年8月11日

里村幹夫, 静岡だいいちテレビ, 「ドキュメント静岡～防災先進県の実像～」, 2009年10  
月6日

里村幹夫, 静岡新聞, 「GPS観測点の変位データ 断層モデル裏付け 静大教授ら」, 2009  
年10月22日

里村幹夫, 静岡新聞, 「地震対策 留学生に講義 家具固定、頭守って」, 2009年10月28  
日

里村幹夫, 2009年12月16日 静岡朝日テレビ, 「とびっきり静岡 駿河湾地震の教訓は」,  
2009年10月28日

里村幹夫, 静岡朝日テレビ, 「とびっきり静岡 必見! 家族を守る方法 阪神大震災から15  
年」, 2009年10月28日

里村幹夫, 2010年1月16日 週刊東洋経済, 「防災意識低下への敬称先進権が肝を冷や  
した日」, 2010年1月15日

里村幹夫, 週刊朝日 地震学者に聞く, 「私の地震対策」, 2010年1月22日

里村幹夫, 静岡新聞, 「非常に関心」, はや低下 里村静大防災総合センター長アンケー  
ト結果分析 2010年2月10日

里村幹夫, テレビ静岡 スーパーニュース, 「ハイチ地震」, 2010年2月25日

池谷直樹、静岡新聞、大規模災害時、派遣医療チームが側面支援ー静岡の民間団体が組織  
2008年1月7日

池谷直樹、静岡新聞、この人「DMAT支援隊静岡」会長、2008年1月12日

池谷直樹、静岡新聞 災害時の道路情報共有 静岡郵便事業会社と協定ーDMAT支援隊、  
2010年2月27日

池谷直樹、毎日新聞 郵便局から道路情報『DMAT支援隊』が協定 2010年3月2日

四川大地震こころのケア日本チーム(小林朋子がメンバーとして派遣), 朝日新聞、毎日新  
聞、神戸新聞などに掲載、2008年5、6月

小林朋子：四川大地震被災地の実情（県防災総合センター講演について）、静岡新聞など各紙、2008年6月

小林朋子：中日新聞、四川大地震の被災地の実情、2008年9月

小林朋子：静岡新聞、この人、2008年

小林朋子：静岡新聞、災害時における障害のある子どもたちのケア、2009年12月

小林朋子：中日新聞、こころのケアハンドブック、2010年3月

四川大地震こころのケア日本チーム（小林朋子がメンバーとして派遣）、NHK、あさひTVなど多数メディアによりニュース報道、「四川被災地への日本チーム出発」2008年5月26日

小林朋子、NHK静岡「たっぷり静岡」、四川大地震被災地の心のケア、2008年7月

小林朋子、NHK静岡「たっぷり静岡」、静岡県内の心のケアの実情、2008年9月

小林朋子ら、NHKニュース（全国・静岡版）、「駿河湾地震 御前崎地域でのこころのケア活動」2009年8月

小林朋子、NHK静岡「たっぷり静岡」、駿河湾地震後の心のケア、2009年9月

笠原英男、中日新聞、おはよう 指揮系統の一本化を、2008.8.21

笠原英男、中日新聞、機能的活動1冊に、2008.8.30

笠原英男、SBSラジオ、災害ボランティア、2008.12

笠原英男、中日新聞、地震後の片付け支援、2009.8.27

### 5.3 公的委員会の委員等

小山真人、静岡県地震防災センター利用の充実に関するワーキング第3回会議（学識経験者として依頼出席）、2008年6月

小山真人、伊東市史編さん委員会編集委員、2000年4月～

小山真人、国土交通省「富士山火山砂防計画検討委員会」委員、2005年3月～

小山真人、日本放送協会静岡放送局視聴者懇談会委員、2008年7月～

小山真人、伊豆東部火山群の火山防災対策検討会副会長、2009年1月～

小山真人、火山噴火予知連絡会コア解析グループ協力者、2009年8月～

小山真人、中部圏開発整備地方協議会委員、2009年10月～

小山真人、ジオパーク静岡県庁内検討会議アドバイザー、2009年12月～

小山真人、火山噴火予知連絡会伊豆部会（学識経験者として依頼出席）、2010年1月28日

小山真人、伊東市ジオパーク構想推進検討会議アドバイザー、2010年2月～

小山真人、御殿場市御殿場高原富士山交流センター展示物監修者、2010年2月～

牛山素行、岩手国道河川工事事務所 災害情報協議会 委員(アドバイザー)、2005年7月～

牛山素行、東北農業研究センター運営費交付金プロジェクト研究評価会議 評価委員、2008年7月～

牛山素行, 平成20年岩手・宮城内陸地震に係る土砂災害対策技術検討委員会 委員, 2008年6月～2009年3月

牛山素行, 岩手山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会委員, 2009年2月～

牛山素行, 京都大学防災研究所「自然災害研究協議会」委員, 2009年4月～

牛山素行, 内閣府 大雨災害における避難のあり方等検討委員会 委員, 2009年10月～2010年3月

牛山素行, 国土交通省 水災害監視・予測勉強会 委員, 2009年12月～2010年3月

林能成, 財団法人地球科学技術総合推進機構 防・減災における適切・機敏な初動判断形成に関する調査研究委員会(委員長石田瑞穂) 2008年度

林能成, 独立行政法人防災科学技術研究所, 地震瞬時速報利用検討委員会, 委員, 2009.

林能成, 平成21年度アジア・太平洋各国の防災力強化支援実施業務(内閣府), 学術アドバイザー. 2009.

林能成, 第9回しずおか川自慢大賞, 審査員, 2010年2月20日.

里村幹夫, 国土交通省国土地理院研究評価委員会委員, 2004年5月～

里村幹夫, NPO法人 災害・医療・町づくり理事, 2007年6月～

里村幹夫, 静岡県総合計画審議会委員, 2008年3月～

里村幹夫, NPO法人 人形劇プロジェクト「稲むらの火」理事, 2008年5月～

里村幹夫, 静岡県総合計画審議会県民生活部会委員, 2008年8月～現在

里村幹夫, 第1回「震災対策技術展／自然災害対策技術展」静岡 実行委員長, 2009年4月

里村幹夫, 放送大学 非常勤講師(面接授業担当、地震の科学), 2009年4月～

里村幹夫, 静岡県建設部 富士山富士宮口落石対策検討委員会委員長, 2009年7月～2010年3月

池谷直樹, NPO法人「災害・医療・町づくり」理事

池谷直樹, 「DMAT 支援隊静岡」隊長

池谷直樹, 全国大学保健管理協会評議員 2008年12月1日から2010年11月30日

池谷直樹, 国立大学法人保健管理施設協議会理事 2009年9月から2010年8月

村越真, 静岡県朝霧野外活動センター外部評価委員会・委員長 2008-2009年度

村越真, 文部科学省冬山登山研修会安全検討会・委員 2008-2009年度

前田恭伸, コープしずおかリスクコミュニケーション委員会座長, 2008年度・2009年度.

前田恭伸, ユーコープ事業連合リスクコミュニケーション委員会副委員長, 2009年度.

前田恭伸, 浜松市建築紛争調停委員会委員, 2009年度.

前田恭伸, 浜松市景観審議会委員, 2009年度.

前田恭伸, 湖西市ユビキタスタウン地域協議会委員, 2009年度.

#### 5.4 学会の委員等

- 小山真人, 日本地震学会普及行事委員, 2003年5月～
- 小山真人, 日本災害情報学会学会誌編集委員会委員, 2005年5月～
- 小山真人, 歴史地震研究会広報委員会委員, 2006年10月～
- 牛山素行, 日本自然災害学会 編集委員会 委員, 2005年5月～
- 牛山素行, 日本災害情報学会 学会誌編集委員会 副委員長, 2005年7月～2009年10月
- 牛山素行, 日本自然災害学会 災害情報委員会 委員長, 2008年4月～
- 牛山素行, 水文・水資源学会 研究調整委員会委員, 2008年9月～
- 牛山素行, 第41回砂防学会シンポジウム実行委員会 委員, 2009年4月～2010年3月
- 牛山素行, 第11回日本災害情報学会研究発表大会実行委員会 副委員長, 2009年4月～  
2009年10月
- 林能成, 社団法人日本地震学会 ASC&SSJ2008 プログラム委員会委員, 2008.
- 林能成, 社団法人日本地震学会, 代議員, 2006～.
- 林能成, 歴史地震研究会, 広報委員長, 2009～.
- 林能成, 社団法人日本地震学会, 大会・企画委員会委員, 2009～.
- 里村幹夫, 日本測地学会広報委員長, 2000年6月～
- 里村幹夫, 日本測地学会評議員, 2006年4月～2008年3月, 2009年4月～
- 里村幹夫, 日本地球惑星科学連合 教員養成等検討小委員会委員, 2005年5月～
- 里村幹夫, 日本地球惑星科学連合教育問題検討委員会委員, 2007年4月～
- 村越真, 日本国際地図学会・評議員, 2008-2009年度
- 村越真, 日本認知科学会・運営委員, 2008-2009年度
- 前田恭伸, 日本リスク研究学会 理事, 2002年～
- 前田恭伸, 日本リスク研究学会 常任理事, 2006年～
- 前田恭伸, 日本リスク研究学会 情報管理委員会委員長, 2008年～
- 前田恭伸, 日本リスク研究学会 編集委員会副委員長, 2008年～
- 小林朋子, 実践人間学研究会編集委員, 2000年1月～
- 小林朋子, 日本カウンセリング学会編集委員, 2009年6月～
- 小林朋子, 日本学校心理学会編集委員, 2009年11月～
- 小林朋子, アジア障害社会学会編集委員, 2002年2月～
- 小林朋子, アジア障害社会学会編集委員理事, 2010年1月～
- 伊藤英之, 日本火山学会理事・事業委員長 (2006年7月～2010年6月)



防災総合センター年報 第1号

---

2010年6月30日発行

著者・発行者

静岡大学防災総合センター

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836

電話：054-238-4502

E-mail：sbosai-office@sakuya.ed.shizuoka.ac.jp

URL：http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/sbosai/